これでいいんですか？？

crime025

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
これでいいんですか??

【Ｎコード】
Ｎ７４４５Ｍ

【作者名】
ｃｒｉｍｅ０２５

【あらすじ】
気付いたらド〇クエの世界にいた俺は、その世界の母に付けられた『アラン』という偽名を使い（原因不明なまま）とりあえずブラブラとのん気に冒険に出た。
そして流されるまま旅をしていると、いきなり呪われた天空の剣が・・・っ!?大丈夫か、この物語!?

≪プロローグ≫～ある女性の視点～（前書き）

はじまりだけ見るとなんとも言えないんですが、まぁ見てってください♪

あと、小説タイトルがかなり変ですが、

Ｄｏｎ，ｔ ｔｏｕｃｈ，ｐｌｅａｓｅ．（触れないで下さい）

内容は主にド○クエ４・５ッ！詳しくは後書きでッ♪

貴方にわれらが神のご加護がありますように・・・・・。

≪プロローグ≫～ある女性の視点～

「母さん、俺・・・」

彼は少しバツが悪そうな顔をして言った。

「言わなくていい。分かってるから・・・」

そう、私には分かってる。彼が何を言いたいのか、その顔を見れば分かる。

「貴方は昔から一度言い出したら聞かない子だったか」

私は続ける。

「私は貴方を止めはしない」

私には彼を止める事が出来ない。それほど彼の決意は固かったから。

「だけど約束して・・・」

私は一息入れて続ける。

「必ず帰ってくるって――」

彼は力強く頷いて私の元から去って行った

それは私が彼と結んだ最後の約束――

≪プロローグ≫～ある女性の視点～（後書き）

とりあえず、内容を４・５にしたにはそれらがなんとなく似ていたのと（６・７もってないからそれは知りませんけど）、その内容が結構好きだったからです（私的に５が一番好きです）。
９も入れようかと迷ったのですが、ちょっと無理がありました（出す機会があれば出そうと思っていますが）。
とりあえず私（弟）が持っているのは４・５・８・９だけ（８はプレステです）なので、それとなく出ているかもしれません。
あと、雑談ですが、弟が夏休み中に６を買うつもりだそうです。では、ここで決め台詞を・・・。

神さまはいつも私達を見守っていてくださいます。
また　おいでなさいね。

≪プロローグ≫～少年の視点～

ある山奥に　名もない小さな村がありました。

その村に住む人々は　決して表に出ず　よそ者を寄せ付けず　ひっそりと暮らす毎日。

村人達以外は　そんな村が　あることさえ　知りませんでした。

「母さん、俺・・・」

俺はバツが悪そうな顔をして言った。だって、こんなこと言ったら母さんを悲しませてしまうんじゃないかと思ったから。

「言わなくていい。わかってるから・・・」

母さんは俺が何が言いたいのか分かったようだ。母さんは少し悲しそうな顔でどこか遠くを見ながら言った。

「貴方は昔から一度言い出した聞かない子だったから」

「私は貴方を止めはしない」

「だけど約束して・・・」

母さんが一息入れて続ける。

「必ず帰ってくるって――」

俺は力強く頷いて、この家を去って行った。

それは俺が母さんと結んだ最後の約束――

≪プロローグ≫～少年の視点～（後書き）

はい、次からいよいよ一話です。というか始めの方はパクらせてもらいました。でも、一つだけ忘れないで下さい。ド〇クエ４の村は滅びましたが、この村はこのまま誰にも知られないまま存在し続けるでしょう。

大切な話をするときは時と場所を考えましょう。（前書き）

とりあえず、少年『アラン』の冒険がスタートです。
かなりグダグダしてますが楽しんで頂けると光栄です。

大切な話をするときは時と場所を考えましょう。

とりあえずこれからどうしよう？

基本的に無計画な俺はフラフラと街中を歩き回っていた。

なんでまだ街にいるのかって？

そんなの決まってる・・・

だっていきなり外に出るのって危険じゃん？

ド〇クエの主人公だっていきなり町の外には出ないし・・・

ってことで、とりあえずド〇クエの基本『情報収集』でもしますかッ♪

数分後、

よし、とりあえず分かったことは・・・

近くの村で起きているある事件のこと

――これがなかったら話が進みません。

魔物について

――知らなかったら困りますね。

戦い方
――基本ですね。
薬草等の使い方
――怪我したときに便利ですね。
この街の名前
――知らないほうがおかしいです。
話し方
――そんなの教えてもらわなくても結構です。
人の家に勝手に入っても怒られないこと
――不法侵入じゃないんですか。
勝手にその辺の壺とか樽とか壊しても怒られないこと
――何かの暴走族ですか？
宝箱とかタンスとか押入れとか開けても何も言われないこと
――このままでは泥棒が大量発生してしまいます。
メニューの出し方
――Xボタンって何ですか？どこにあるんですか？

・・・後半が何かおかしいような気がする。
まぁ、すること決まったからいいかぁ～、とか思ってると不意に声をかけられた。

「ハァ・・・ハァ・・・待って、・・・アラン」

誰かが息を切らしながら走ってきた。

とりあえず俺の名前を知ってるということは危険人物ではなさそうだ

「もう、ハァ・・・ハァ・・・探したん・・・ハァ・・・だから・・・」

ああ、誰かと思えば母さんじゃないですか。

って、あれ！？　母さん！？

もしかして俺がこの辺うろうろしてるから何か勘違いしてるんじゃ・・・

勘違いされても困るし、とりあえず誤解を解いておこうッ！

「違うよッ！　ベッ、別に魔物が怖くてこの街から一歩も出れないなんてことはないんだよッ！」

そんなこと思ってるもんかッ！　・・・たぶん。

「貴方に言いたいことがあります」

何かスルーされた。まぁ、勘違いして無いならいいけど・・・。

「実は貴方は私の子ではありません」

やっぱり母さんは俺のこと分かってくれたんだ。

って、はい??　さっきなんとおっしゃいましたか?
俺が心底驚いた顔をすると母さんが（勝手に）話し始めました。
「実は・・・」
とりあえず母さんの話によると・・・
俺は数日前、この世界に何故か突然（空から）現れました
そして町の外で倒れた俺を母さんが助けてくれました
で、母さんが3日間手当てしてくれました
そして俺が目を覚ました
俺はその場の状況が理解できずとりあえずお決まりのセリフを言いました
俺が『ここは・・・?』って言って起き上がってきたから母さんが
『何言ってるの?ここは貴方の家よ』と言いました
んで、俺が続けて『貴方は・・・?』って聞いたらまた母さんが
『もう、記憶でもなくなっちゃったの?私は貴方のお母さんよ』と言いました

混乱していた俺はなんとなくその言葉を信じました。

・・・何これ？　何の冗談ですか？

「そういうことなの、本当に御免なさい」

母さんは必死に謝っていた。

そんなに必死に謝るくらいなら、最初からそんなこと言わないで下さい。

というか母さんの言葉も無茶苦茶だけど、
それを信じて今まで（5日間）生きてきた俺もどうかしてるよなぁ・・・

ってことは母さん、今まで俺を騙して・・・

あ、いやいや落ち着くんだ、俺ッ！　こんなときこそポジティブシンキング！

じゃあ、母さんはこっち側（異世界）の母って事にしよう！

うん、我ながらナイスアイディアだッ！

「貴方にはショックかもしれないけど、逝く前にどうしても真実を伝えたくて・・・」

あれ？　何かおかしな言葉がありませんでしたか？？

「あと、謝罪の気持ちとしてこれを・・・」

母さんはそういって小さな袋を取り出し、俺に渡す。

「これは・・・？」

「貴方が装備とか宿とかに困らないようにお守り」

母さんは笑顔でそういった。

俺はおそるおそるその袋を開けてみると・・・

そこに入っていた物は福沢諭吉が５枚！？

母さん、貴方が神に見えましたッ！！

「じゃあ、逝ってらっしゃい」

とりあえず、最後の言葉は聞かなかったことにしよう

人の話はちゃんと聞きましょう。（前書き）

相変わらず訳が分からないサブタイトルですが、気にしないで下さいw

人の話はちゃんと聞きましょう。

まずこんなにゴールドがあるんだから装備を買おう

とりあえず今は自分が何処から来たとか、
何で来たとかはあんまり考えないことにしよう

考えると混乱するし・・・

そのうち分かるだろうってことで放置。

てか、始めっから3万Gも持ってる主人公はどのド〇クエにもいないよね・・・？

まぁ、どうでもいっか♪

数分後

俺は武器屋に向かって歩いていると後ろから誰かに声をかけられた。

「当店のオススメはこの銅の剣（つるぎ）でございます」

いきなり！？　それ第一声で言う言葉ですか？

しかもここ店じゃないよね？　道の真ん中で商売してる人見たの初めてだよ

とりあえずこんな怪しい人から買う気ないから何とか断らないと・・・

・

「あ・・・あの～？」

「これは一見普通の剣（つるぎ）に見えますが実は凄い力を秘めているんです」

え？　無視！？　（一応）商人なら客の言葉にもっと敏感になれ！

ってどこからどう見ても普通の剣だよ！

「もしも～し？」

「ただの凡人には分かりませんが貴方のような素晴らしい人にはきっと分かるでしょう」

この人は人の話を聞くことが出来ないのだろうか

俺も一応凡人ですけど・・・

「お～い！」

「今ならたったの３万Ｇでどうです？」

こんなに大声で叫んでるのに聞こえないんですか！？　無視は無しだよ！

しかも高いよ！　銅の剣（つるぎ）だけで３万Ｇとか聞いたことないよ！

「おい！そこで何やってんだ！」

誰かが武器屋から出てきた。　うわぁ～、ごっついおっさんだぁ・・・。

「・・・またお前か」

ごっついおっさん（以下強男）が怪しいおっさん（以下怪男）を睨んで言った。

すごい迫力・・・。

「・・・チッ」

すると怪男が逃げるように去っていった。

「おい、兄ちゃん大丈夫か？」

強男が特に心配して無いと言う顔で聞いてきた。

「あ、はい。だいじょ・・・」

「あの野郎この辺でいっつもくだらねぇもん売りつけてんだよ」

遮られた。　最後まで言わせてくれよ！

「お前武器が欲しいんだろ？」

俺は何にも言ってません。

「だったら俺の店に寄ってきな！」

俺に断る権利はありません。

「俺のオススメはこれだな」

店に入るなり強男がある物を持ってきた。

「聖なるナイフってな、魔物を切るのにちょっと適したナイフなんだ」

要するに普通より少し強いナイフってことですね。

「たったの２００Ｇだ。買っていくか？」

まぁ、２００Ｇだったら安いから別にいっか♪

「じゃあ・・・」

「まいどあり！」

俺はまだ『じゃあ』しか言ってませんよ？？

その後、防具屋で鱗の盾と木の帽子買って、
道具屋でキメラの翼１個、聖水３個　毒消草（どくけしそう）３本、薬草を（とにかくいっぱい）買った。

何？　薬草は大切だよ？　無かったら怪我したとき大変だよ？　そ

れにきっと痛いよ？

臆病とか言うなッ！　ただ痛いのが嫌なだけだッ！

男の子なんだから我慢しろって？　んなこと知るかッ！

あと２万Ｇも残ってるんだから別にいいだろ！

人の話はちゃんと聞きましょう。（後書き）

自分で書いてて思うんですが、終わり方がかなり雑ですね。
あと、話が良く分からないと思うのですが、大丈夫でしょうか??
それと完全にパクルのはちょっと嫌だったんで無理やり漢字にして見ました。
次話の投稿は少し遅れると思いますが気長にお待ち下さいw

人のことを臆病とか言うのは止めましょう。

よし！　とりあえず装備も買ったし、薬草も買ったからいよいよ冒険の始まりだ！

でも、何でだろう？　足が言うことを聞いてくれない！

あと、一歩で街を出れるのに足が動かない！

あ、決して怖くて前に進めないってことじゃなんだよ！？

きっと誰かに足が動かなくなる呪文をかけられてるんだよ！　・・・

たぶん。

と、とりあえず、一歩街を出たらいいんだ。そしたら後戻りはできなくなるから！

ならいっそ目を瞑って一歩を踏み出そう！

そうだ、俺ならいける！　俺は強い子なんだ！！

フニッ

何この音？　まさか俺の足跡？？

そんな！　いくら俺が弱いからってそんなの・・・

「ピキーー！　痛いよ～！」

ん？　誰？　確か足元からしたような・・・

俺はおそるおそる足元見ると、何やら青いものが・・・

「うわぁッ！」

「いじめないで！　ぼく悪いスライムじゃないよ！　ついでに僕の名前はスラリンだよ～」

いじめてません。　貴方が勝手に踏まれたんです。

あと、ついでに自己紹介しないで下さい。

というかいつからここにいたんだろう？

「ぼく強いスライムになりたいんだ～」

スラリンが勝手に話し始めた。

この世界の人（魔物）達は勝手に話し始めたり、人の話を聞かないのが普通なんだろうか？

「お兄さんって旅人なんでしょ～？」

・・・・・たぶん。

「お願い～。ぼくを一緒に連れてって～」

う～ん、どうしよう・・・。

まぁ、一人よりはいっか♪

「別にいいけど・・・」

「ありがと～。ぼく、一生懸命頑張るね～」

『スラリンが仲間になった！』

「そういえば旅人さん、名前は～？」

スラリンが突然そんなことを聞いてきた。　そういやまだ言ってなかったっけ・・・？

とりあえず聞かれたことは答えておこう。

「俺の名前は・・・」

「あ、見て～！　魔物が来たよ～！」

どうやら聞く気がないらしい。　・・・って、ん？　今魔物って言いましたか！？

気付けば目の前に魔物がいた。

『スライムが現れた！』

「旅人さん～。ぼくが魔物たちを引き付けてる間に逃げて～！」

言われなくてもそうさせてもらう！　見てろ！　俺の華麗な逃亡劇を！！

『俺は逃げ出した！』

『しかし、まわり込まれてしまった！』

何故だ！　何故俺の必殺技が効かないんだ！？

こうなったら戦うしかない！　よく見たら俺の前にいるのはスライム一匹じゃないか。

何を怖がる必要がある？

あと、向こうを見たらスラリンが2匹のスライムと戦っているように見えるが

あれはきっと幻覚だ！

「ピキーー！！」

スライムが威嚇（？）をした。

調子に乗ってスイマセンでした！　って、何を全力で謝ってるんだ俺は！？

とりあえず、一旦落ち着こう。こんなときに焦るのは良くない。

じっくり落ち着いて・・・。

『スライムの攻撃！』

ザクッ

『俺は3のダメージを受けた！』

左腕に物凄い痛みが走った。　ぎゃぁあああ！　噛まれてる噛まれてるよ！！

というか、噛まれただけでこんなに痛いの！？

『俺は薬草を使った！』

『俺の傷が回復した！』

俺は全力でスライムを振り払って、すぐさま薬草を使った。　・・・

便利だね、薬草って。

『スライムの攻撃！』

そんなこと考えてる間にスライムが再び攻撃してきた。

一度受けた攻撃はもう受けないぞ！

『俺はひらりと身をかわした！』

もう、あれこれ考えてる暇は無い。

俺は持っていたナイフ（聖なるナイフ）で斬りかかる。

『俺の攻撃！』

フニッ

ん？　またこの音？？　今度は何・・・って、え！？

『ミス！　スライムはダメージを受けない！』

見るとスライムがプニプにした体で俺のナイフを受け止めていた。

うぉッ！？　なんて弾力なんだ！　ある意味最強じゃないか！！

「ピキーー！！」

『スライムの攻撃！』

スライムの攻撃で俺は突き飛ばされた。

『俺は2のダメージを受けた！』

自分の弾力を利用して俺を突き飛ばすなんて、ただのスライムじゃないな！？

俺が起き上がろうとしたら、スライムが突撃してきた。

チッ！　このままじゃスライム如きに負けてしまう。

『俺の攻撃！』

俺はとっさの判断でナイフを投げた。すると見事にスライムに当た

った。

≪グサッ≫

『会心の一撃！』

「ピ・・・、ピキキー・・・（ふ・・・、お前なかなかやるな・・・）」

つッ・・・、突き刺さった・・・。

しかも何か変な声が聞こえたような気がする。・・・スライムから。

人のことを悪く言うのは止めましょう。（前書き）

今回のサブタイトルは、ほぼ前のパクリです。
話自体もそんな進んでないのでこれしか出てきませんでした。

人のことを悪く言うのは止めましょう。

と・・・、とりあえずナイフを回収しとこう・・・。

俺はナイフを回収するために動かなくなった
青い物体（スライム）（もはや液体っぽい物）の元へ向かった。

ナイフがドロドロの液体と一体化しかけているためか、ナイフがなかなか抜けない！

俺が悪戦苦闘をしていると、スラリンがこっちにやって来た。

『スライムをやっつけた！』

「旅人さん～！」

『3の経験値を獲得！』

「よかった～、無事だったんだね～」

『6ゴールドを手に入れた！』

・・・さっきからなんですか、これ→？

というか、お金や経験地はどうなるんですか？？

それよりこの声みたいなのはどこから聞こえてくるんですか？？？

「旅人さん～？どうしたの～？」

俺はスラリンの言葉で我に返った。

そういえばなんだか手の辺りが妙に冷たい。

何かいるんだろうか・・・？

この冷たさは・・・もしかして・・・・幽・・・？

いやいやいやいや、それは無い！　というかあって堪るか！！

大体、こんなフィールドで幽〇なんか出てくるか！！

いや、魔物ならありえるのか・・・？

いや、いくらなんでもこんな序盤で出てこないよね！？　４なら・・・・。

とりあえず俺はその正体を確認するためにおそるおそる自分の手を見た。

ん？　青い液体・・・？？

俺はとりあえず頭の整理をしてみた。

どうやら俺がいろいろ考えてる間に一体化が進んでいたようだ。

もはや俺までが一体化しかけて・・・・・って、はい？　なんです

か、この状況は！？

俺は慌ててナイフを握っていた手を放す。

危なかった・・・。

スラリンが声をかけてくれなかったり、
俺の頭の整理時間が長かったら俺は今頃これと一体化してるところだった。

だが、この行動のせいで一つ大きな問題が出来た。

それはもう言わなくても分かると思うが、俺は武器を捕られてしまった。

なんということか！　最後の最後で俺から武器を奪うなんて・・・
なんてスライムなんだ。

あ、俺の自業自得じゃないぞ！？　決して！！

とりあえず、これからどうしよう？

俺としては1秒でも早くどこかの村に行きたいんだが、
辺りを見回しても一面の野原しか見えない。

しかも、下手に動いたら敵と遭遇してしまうだろう。

俺がどうしようか考えている間に、スラリンが何かを見つけたようだ。

「旅人さん、見て～！　あそこに宝箱があるよ～」

そんな馬鹿なことがあって堪るか・・・。

幽〇説の次はこれかよ！？

スラリン、お前は馬鹿ですか？

スラリン、きっとそれはお前の幻覚だよ・・・。

俺がスラリンに言おうとした瞬間、俺の目に何かが映る。

それは何処からどう見ても、正真正銘の宝箱である。

・・・・・・なぜ？

人のことを悪く言うのは止めましょう。（後書き）

とりあえずちょいネタバレしてますがキャラ紹介です。

『アラン』
本名：亜吉良（あきら）　純（じゅん）　職業：高校生／勇者・・・？
年齢：１６歳（高２）　血液型：Ｏ型

@詳細@
ゲームは基本的に恋愛系などの女物以外ならなんでも得意。
特にファンタジー系が好き。

機械にものすごく強く、見たことも無い機械を約１０分～３０分で扱うことが出来る。
勉強は
めんどくさい事が嫌いでめんどくさい事が起きれば（あれば）全て人任せ。
どんなときでも楽な人生を選びたがる。ちなみに二日坊主。
自分にとって都合が悪いことがあれば、その場から逃走する。
高いところが苦手　＝　高所恐怖症。
痛いこと・怖いことが苦手　＝　臆病者・小心者
前向きな考え（ポジティブシンキング）／現実逃避が得意。

@一言@
名前はド〇クエ４の主人公の名前が『アラン』だったんで、それを付けました。
アランに『き』と『じゅ』を足して、あらき　じゅんになりました。
漢字は適当です。『あ』と打って『亜』に、『きら』と打って『吉良』と。

（基本的には普通ですが）なんか変なキャラになってしまいました。
主人公がこれでいいのでしょうか？

悪魔の誘惑に騙されてはいけません。　（前書き）

徐々に主人公が壊れてきているような気がします。

悪魔の誘惑に騙されてはいけません。

って、そんな馬鹿なことがあって堪(たま)るか！

まだ、洞窟や塔などに宝箱があるのは分かるが、

こんな所(フィールド)で宝箱などあるはずが無い！

そんなことがあっていいのは（俺が知る限り）ド〇クエ８だけだ！！

もし、この場所(フィールド)に宝箱があったとしても

街や洞窟などが主人公達より小さいという状況で宝箱で状況で

宝箱など見えるはずが無い！！

≪・・・とりあえず落ち着け≫

俺が一人混乱していると不意に誰かの声が聞こえた。

え！？　何！？　誰！？

「誰ですか！？」

俺は反射的にさっきの声の主に聞く。

≪そして現実逃避は止めろ≫

無視ですか？？

そういえば今まで会ってきた人にことごとく無視されているのは気

のせいか？

その前にこの世界自体が現実じゃないんだが・・・。

≪そんなことを考えていたって実際にあるんだから、もう認めるしかないだろ？≫

というかお前は俺の心の中が見えるのか・・・？

というか何処から話してるんですか？？

≪もう、諦めろ！　ここは異世界だ、何があってもおかしくない！≫

さっきから貴方は誰なんですか？？

≪オレか？　オレはお前の心の中にいる悪魔だ≫

道理で声の主が見当たらないわけだ。それなら俺の考えが分かったことも納得できる。

そういえば悪魔がいるんだったら、天使もいるのでは？？

だとしたら天使の意見が聞きたい。　悪魔よりは絶対に良い案が浮かびそうだ。

≪天使なら今世界一周旅行中だ≫

どうやら俺の心の中の天使は外出中らしい。

というかお前は俺から出て自由に動き回れるのか？？

そういえば今思ったんだが、俺には街や洞窟、森などはどのように見えるのだろうか？

この辺には野原しかないから分からないけど・・・。

ゲームではプレイヤー（俺）が客観的に見てるから
街や洞窟などが主人公より小さく見えているわけだが、
俺は今その世界に入り込んでいるわけである。

まぁ、街に着いたら分かるからいっか。

てか、そんなことよりもこの宝箱は・・・

はッ！？　もしかしてこれは

武器の無い俺にどこかの優しい神様からの贈り物ではないか？

だとしたらこの中には何か武器が入っているのではないか？？

いや、むしろそうだとしか考えられない。　というか、考えたくない。

じゃないと、こんな良いタイミングで（しかもフィールドで）
宝箱が現れるなんて考えられない。

それはお前の頭が馬鹿だからじゃないのか？とか思った奴、何もし

ないから出て来い！

≪俺は現実逃避を抜け出して、現実逃避に逃げ込んだ！≫

黙れ、悪魔！　これは現実逃避じゃない！　ポジティブシンキングっていうんだ！！

そして俺を使うな。お前はオレにしとけ！！

とりあえず、宝箱を開けてみよう。

『俺は宝箱を開けた！』

よし、来い！　俺の相棒（ぶき）よ！

『なんと天空の剣を手に入れた！』

・・・これは予想外である。

悪魔の誘惑に騙されてはいけません。　（後書き）

後書き　キャラ紹介ＰＡＲＴ２！

『スラリン』

本名（？）：守羅鈴（適当ですｗ）　職業：魔物

年齢：不詳（人間にするとたぶん１２歳くらい）

血液型：スライムに血液はあるのでしょうか？（人間にするとたぶんＡ型）

@詳細@

心が強く、優しい人（魔物）が好き。悪い人（魔物）を嫌う。

この世界の誰かの不思議な力によって人の言葉が話せるようになったり、

（約１時間だけだが）人の姿になることが出来る。

@一言@

世界のどこかの誰かは今のところ貴方のご想像に任せますが、

ちゃんと決まってます。

ちなみにホイミンも出て来る予定です。

よく考えてから行動しましょう。（前書き）

主人公だけじゃなく、話自体が壊れてきました。
あ、もともとですね。

よく考えてから行動しましょう。

これは幻ですか？　それとも現実でしょうか？

俺が放心状態になっていると、

スラリンが宝箱の中に入っていた一通の手紙を持ってきた。

「旅人さん、まだ何か入ってるよ～？」

そして、それを俺に渡す。

手紙の内容はこうだ！

勇者様へ

初めまして、勇者様。

この宝箱の中身、どうでしたか？

いきなりで驚かれたと思いますが、それは本物ですよ。

こんな序盤で出てくるのはおかしいと思いますが、こちらにもいろいろありまして・・・。

まぁ、大切にして下さい！

P．S．

早く魔王を倒してこの世界から消え・・・・た平和を取り戻してください。

この手紙は一体・・・？　というかいろいろって何！？　何があったんですか！？

あと、P．S．で早く消えて下さいと言われたような気がしたけど気のせいでしょうか？

というか俺は勇者なのか・・・？？

もうその時点から疑問だ。

俺はこれを装備できるのだろうか？？　勇者かどうかも不明だから分からない。

とりあえず装備してみよう。

『俺は天空の剣を装備した』

一応装備出来るらしい。

『天空の剣には呪いがかけられていた』

何で天空の剣に呪いがかけられてるんですか！？

「旅人さん、もう一通手紙が入っていたよ～」

俺はスラリンが持ってきた手紙を略奪し、すぐさま内容を見る。

書き忘れていましたが、
天空の剣には魔王を倒せなかった勇者達の呪いがかけられます。

大丈夫です。　特に害はありませんから。

ただちょっと幻覚が見えたりしますが大丈夫だと思います。

あとは他の武器が装備できなくなったり、その他いろいろです。

まぁ、でも勇者ならそれくらいのハンデがあったっていいでしょ？

せいぜい頑張りやがれ！

書き忘れんないで下さい。

だいたい勇者の呪いって何ですか！？　勇者ならきれいに成仏して下さい！

特に害はありませんからって言われても安心できません！！

幻覚が見える時点で大丈夫じゃありません！

というかその他いろいろって何ですか！？　何が起こるか気になるじゃないですか！

そのハンデがあったからみんな魔王に負けちゃったんじゃないんですか！？

あと、最後の文酷くないですか！？

・・・全ての文に対して突っ込んだ気がする。

よく考えてから行動しましょう。（後書き）

今回の話はいつもより短くなってしまいました。
というか話が全然進みません。この調子で魔王を倒すまでいけるのでしょうか？
先が不安になってきました。
まぁ、グダグダ進めていきますw

精神を強く持ちましょう。（前書き）

擬人化入りま～す♪

精神を強く持ちましょう。

とりあえず街に行きたい。そしてこの呪いを解きたい。

そういえばさっきから俺の頭上に３ｍくらいの黒いドラゴンが飛んでいる。

誰・・・いや、何だこれ！？　これは本当にこの世の生き物なのか！？

どこのド〇クエでも見た事が無いぞ！？

というかこれは幻覚だよね？　頼むから幻覚であってくれ！！

勇者達はこんなのと戦ったのか！？　俺なら本物を見ただけでノックアウトだよ！！

あと、なんとなくこの剣が俺を拒絶しているような気がする。

いつの間にかスラリンが消えている。どこに行ったんだろう？

「旅人さん、向こうの方に村があったよ～」

お前はなんでも探し屋か・・・って、いつの間に戻ってきたんだよ！？

というかお前は一応俺の仲間（パーティー）だよな？

仲間（パーティー）が勝手にどこかに行っていいのか？

もし、そんなことが出来るならラスボスのときに仲間（パーティー）が多分全員揃っていないだろう。

最悪の場合、主人公が一人でラスボス戦だ。それは非情に困る。

なんだかんだで数分後に村に着いた。

途中2～3回ほど戦闘があったが、普通に戦えた。

この剣の攻撃力も普通の天空の剣と同じくらいだ。

今のところステータスが下がったり、状態以上になったりもしてない。

ただ一つおかしい所があるとすれば、

敵の攻撃のときにそれに合わせて幻ドラゴンが俺に攻撃してくることくらいだ。

そのせいで、恐怖で体が動かなかったり（＝麻痺）、

たまにドラゴンに攻撃してしまったり（＝マヌーサ）してしまう。

あと、（精神的に）体力（ヒットポイント）が削られていってる（＝毒）ような気がする。

いや、別に幻覚だから攻撃されても痛くは無いんだよ？

でもさ・・・、すっごく怖いんだよ！

なんかドラゴンと戦っているような気がして仕方ないんだよ！！

だって目の前にドラゴンがいるんだよ！？

しかもすごい形相で睨んでくるんだよ！？　怖くないわけ無いじゃん！！

怖がりとか言うな！　あと気のせいとかも言うな！！

・・・まぁ、いいや。とりあえず教会に行こう。

あ、そういえば一つ気になることが・・・。

「お前はどうするんだ？」

「え、ぼく～？　何で～？？」

「あ、そっか～！　変身するの忘れてた～！！」

俺がスラリンに聞き、スラリンが変なことを言う。

「ちょっと待ってってね、旅人さん～」

スラリンがブツブツと何かを呟きだす。

おい！　何をする気だ！？

俺が不安そうにスラリンを見る。

スラリンの呟きが終わるのと同時に、ポンという音と白い煙が出てきた。

そして中から声がする。

「お待たせ～」

現れたのは１２歳くらいの少年・・・いや、少女だろうか？

見た目だけでは性別が分からない。

スラリンか！？　お前は人間になれるのか！？

「早く村に入ろうよ～」

勝手に話を進めないで欲しい。

人生はマニュアル通りじゃなくていいんです。（前書き）

投稿遅れてスイマセン。これも全て夏風邪が原因です。私の大事な時間があいつのせいで消えていきました。今もまだ完全では無いのですが割と元気です。

人生はマニュアル通りじゃなくていいんです。

～アランｉｎイムルの村～

とりあえずこの村は名前は何だろう。近くの人に聞いてみよう。

「イムルの村にようこそ！」

聞く前に言われた・・・。

俺の心の中でも見えるのか？　それともこの村の決まりだろうか？

できれば後の方であって欲しい。じゃないといろいろ困る。

・・・イムルってことはライアンのとこか。

まぁ、とりあえず教会に行こう。

俺が教会に向かっていると、スラリンが何か言いたそうに俺を見上げていた。

「どうした？」

「ぼくあっち行きたい～」

いきなり仲間解散（パーティー）の危機が・・・。

「・・・好きにしろ。その代わり村から出るなよ」

この村から出られたら本気で困る。

「ありがとう、旅人さん～！」

本当にボス戦が危ないかもしれない。

というかこいつはいつまで俺のことを『旅人さん』と呼ぶ気だろうか？

～アランｉｎ教会～

「頼もしき神のしもべよ。わが教会にどんなご用じゃな？」

ゲーム通りのセリフだ。

これを聞くと何故か落ち着くのは今までがゲーム通りじゃないからか？

「呪いを解いてください」

「どなたの呪いを解くのじゃ？」

とことんゲーム通りだ。

やっぱりここはゲームの世界なんだという実感が沸いてきた。

「俺しかいませんよね？」

「さすれば我が教会に５０００ゴールドのご寄付を。　よろしいですかな？」

こんなゲームは存在しない。序盤でこの金額は高すぎる。

「おお、神よ。お力を！　忌まわしき呪いをアランより消し去りたまえっ！」

俺はまだ承諾した覚えはありません。勝手に話を進めないで下さい。

≪タララララーラーラー≫

どこからともなく音が聞こえてきた。

その瞬間、俺の右手（剣を持っている方の手）に激痛が走る。

まるで俺の右手に電流が流れている感じだ。しかもバチバチという音が聞こえる。

とりあえず神父さんに助けを求めよう。というかこれを止めてもらおう。

「神父さん、ストップッ！　右手がすっごく痛い！！　何かバチバチいってるしッ！」

俺は右手を押さえながら必死に叫んだ。

「ほかにご用はおありかな？」

「ありません！　それより早く助けて下さい！！」

無視ですか？　今のところ俺の話を1回も無視して無い人はいないんじゃないですか？

「ではお気をつけて。　神のご加護のあらんことよ」

「勝手に終わらせるなよ！！」

そして・・・

「・・・おかしいですね？　これで解けない呪いなんてないのですが・・・」

「やっと対処してくれるんですね。
でも貴方がもたもたしてる間に痛みが消えてしまいましたよ？」

「すいません。一応ゲーム通りにしないと私の存在が消えるんです」

なんてマニュアル通りな世界なんだろう。

「ちょっと見せて下さいね」

神父さんは俺の右手を掴み、持ち上げる。

「すごいですね。これ・・・本物ですか？」

主語を入れてください。

「何がですか？」

「この剣ですよ。本物の天空の剣ですよね？」

「そうだと思いますが・・・」

これが偽物だったら俺は間違いなく切れるだろう。

「分かります。このとてつもないオーラ。正しく伝説の剣に相応しい」

というか剣のことより呪いの件についての回答を願います。

「でもなぜ貴方がこれを・・・」

この言い方からして俺は勇者じゃないのだろう。

「知りません。俺が聞きたいくらいです」

「この剣は勇者しか装備できないはずのに・・・」

遠回し気味だけどはっきり言われた。

「神父さん、俺は一体何なんですか？」

「さぁ・・・私にも分かりません」

俺は未知の生物らしい。

「とりあえず魔王でも倒してみたらどうですか？」

『とりあえずコンビニでも行ってきたらどうですか？』みたいなノリで言わないで下さい。

「大抵の異世界物語というのは魔王を倒したらもとの世界に帰ることが出来るそうです。
だから貴方の場合も多分そうだと思います」

なんで貴方が異世界物語のことを知ってるんですか？

というか何故俺が異世界から来たことを知ってるんですか？？

「でもこれは普通の異世界物語じゃありませんよね？」

「そうですね。普通は主人公、つまり貴方が勇者のはずですが・・・」

「・・・俺は勇者じゃない」

「まぁとりあえず頑張って下さいね、亜吉良（あきら）　純（じゅん）様」

ん？　亜吉良　純ってどこかで聞いたことが・・・。って俺の本名じゃねぇか！？

やっと思い出せた・・・。じゃなくて！？

「何で俺の本名知ってるんですか！？」

「何故でしょう。ちなみに私は『キイト』こと『亜吉良（あきら）　海斗（かいと）』です」

・・・どうやらこの神父さんは俺の弟のようだ。

ずるい事はいけません。

とりあえず一番聞きたい事を聞いておこう。

「どうしてお前がここに！？」

「そんなの決まってるじゃないですか。馬鹿な兄を助けに来たんですよ」

馬鹿で悪かったね・・・。

俺が言い返そうとしたその時、外から女性の悲鳴と叫び声が聞こえた。

「きゃぁぁあああッ！」

俺達は急いで外に向かった。

本当は行きたくないんだけどね・・・。

何故かって？　だって何か嫌な予感がするからです。別に怖いとか思ってませんよ？

「だッ誰か助けてくださいッ！！」

外に出てみると一人の女性が何かを指差して叫んでいた。

女性が見ている方には子供と魔物が２匹。・・・って、ちょっと待

って下さい。

あれ大目玉とピサロの手先じゃないですか！？

なんでこんなところにいきなりボスがいるんですか！？

というか引きずって悪いけどまた幻ドラゴンが頭上を飛んでいる。

しかも子供を連れて行こうとしている。貴方は一体何がしたいんですか？

「私の子供が・・・ッ！！」

なんかもう原作無視してるじゃないですか。

「兄さん、どうします？」

「大丈夫だ。きっと後で救世主が現れるから」

正直関わりたくない。というか行きたくない。こういうことは誰かに任せるのが一番だ。

「もしかして怖いんですか？」

・・・図星です。けどそんなこと言えないので言い返そうする。

「そッそんなことは・・・」

「おい。そこの魔物。その子供を放せ」

俺の話を遮る＋無視ですか？　徐々にレベルアップしてますね。
というか勇気ありますね。よくそんなことが言えましたね。
あと話し方が変わってます。貴方は誰ですか？
「なんだと！？」
魔物が怒って言う。　・・・正直怖いです。
「・・・ってこの人が言ってました」
「・・・え！？」
何言ってるんですか！？　俺は何も言ってませんよ！？
というかさっきのは俺のセリフを真似たから話し方が変わってたんですね・・・。
でも俺はあんなこと言いませんよ？　絶対に！！
「なんだと小僧。言ってくれるじゃないか？」
だから俺は何にも言ってませんって！？
『ピサロの手先と大目玉が現れた』
いきなり戦闘モード！？

「私が援護します」

当たり前だ。こいつが勝手に言ったのに無視するなんてことしたら後でぶん殴ってやる。

というかスラリンがいない。本当にボス戦で来なかった。なんて奴だ。

とちあえず攻撃しとこう。じゃないと戦闘が進まない。

『俺の攻撃！』

いきなりボスは攻撃しない。それが俺のポリシーさ。

・・・かっこつけてスイマセン。実はボスに攻撃するのが怖いだけです。

だって凄い顔で俺のこと睨んでくるんですよ！？

怖くないわけ無いじゃないですか！！

『大目玉に４０のダメージ！！』

・・・流石天空の剣。攻撃力だけは凄いな。　というかよく生きてますね。

「ねぇ兄さん、私は一体何をすればいいんですか？」

「とりあえず作戦は『俺に任せろ』でッ！」

「えぇ！　兄さん命令してくれないんですか！？」

お前も少しは苦労しやがれ！

というかお前が何が出来るか分からないから命令出来ないだけなんだけどな。

「じゃあ、見よう見まねで行きますよ」

『私はバイギルトを唱えた！』

『俺の攻撃力が2倍になった！』

序盤でこれを使えるキャラは見たこと無い。

『ピサロの手先の攻撃！』

『俺は１０のダメージを受けた！』

『大目玉の攻撃！』

『俺は3のダメージを受けた（※以下省略）』

省略しないであげて下さい。　可哀そうじゃないですか。

もうこれすらも原作離れしてんじゃねぇか！！

というか以下省略ってことはずっと変わらないって事ですよね？

てことはずっと俺に攻撃してくるんですか？

それだと俺も可哀そうじゃないですか！？
そうだとしたらやらなきゃいけないことがある。
「作戦変更だ！　『命令させろ』で行く！」
「兄さん、やっと指示くれるんですね」
「とりあえずスカラかスクルト使えるか？」
軽く無視してみた。さっきの仕返しということで・・・。
「分かりました！」
『私はスカラを唱えた！』
『俺の守備力が１００増えた！』
増えすぎです。序盤でそんなに増えたらほぼ無敵じゃないですか。
『俺の攻撃！』
『大目玉に８０のダメージ！！』
流石バイギルトと言いたい所だけど・・・。
これは何処の戦いですか？　これは本当に序盤ですか？？
『大目玉を倒した！！』

・・・なんか可哀そうなので先に倒しました。

『ピサロの手先の攻撃！』

『ミス！俺はダメージを受けない！』

そりゃそうです。　普通はそうなるはずです。

というかさっきから俺しか攻撃されて無い。

『私はルカ二を唱えた！』

『ピサロの手先の守備力が１００下がった！』

今度は下がりすぎです。　もうこれは序盤の戦闘じゃないです。

というかこれはチートじゃないですか。　チートは良くないですよ。

『俺の攻撃！』

『ピサロの手先に２００のダメージ！！』

『ピサロの手先をやっつけた！』

バイギルト＋ルカ二の威力って凄いですね・・・。

というか何でこんなにキリのいい数字ばかり並んでるんですか？

『俺は１００の経験値を獲得！』

凄く早く終わったような気がする。

『１０ゴールドを手に入れた！』

少なッ！　どんだけケチなんですか！？

・・・とりあえず初のボス戦で勝利しました。

ずるい事はいけません。（後書き）

≪登場人物紹介ＰＡＲＴ３≫

『キイト』

本名：亜吉良（あきら）　海斗（かいと）　職業：高校生／神官？

年齢：１５歳（高１）　血液型：Ａ型

@詳細@

真面目でしっかり者。どんな事でも真面目にコツコツするタイプ。

目立つことが嫌うため、よく縁の下の力持ちになる。

努力をせずに楽しようとする人が嫌い。

勉強は文系が得意。静かなところで読書をするのが好き。

@一言@

主人公の弟の一人です（あと2人いますよ）。名前は言いませんが

予想しようと思えば出来ます。なんていったって３つ子ですからね。

海とくれば・・・？って感じですね。

ちなみにこの子が一番しっかり者です。

人生はいつ何が起こるか分かりません。

・・・何？　この状況？

「なんとか勝てましたね・・・」

キイトが俺に向かって言う。なんだかかなり疲れているようだ。

かなり余裕で勝ったような気がするのにお前は一体何をしたんだ？

というか勝ったのに全然嬉しくないのは俺だけだろうか？

「人間如きに敗れるとは・・・」

俺が妙な気分に浸っているとピサロの手下（以下ボス）が急に話し出した。

「だがきっと他の魔物たちが勇者を探し出し、その息の根を止めることだろうよ・・・」

「お前達人間はやがて帝王様の生贄となるのだ。地獄で待っているぞ・・・ぐふッ！」

こうしてボスは消えていった。　あくまでこういうとこだけは原作通りなんですね。

俺が消えていくボスを見ていると一人の凄く嬉しそうに女性が近づいてきた。

この人はさっき叫んでいた人じゃないか。何かお礼の品とかくれるのかな？

「ありがとうございます！　貴方のおかげで私の子供が助かりました」

「いえいえ、そんな大したことしてませんので」

実際にそんな大したことはしていない。こっちはほとんど無傷だ。

「お礼にこの天空の兜を差し上げます」

・・・もうどうしたらいいんですか？

確かにお礼の品はくれると思っていましたがこれは予想外です。

もうどう反応したらいいか分かりません。

というか何故持ってるんですか！？　貴方はただの一般人ではないのですか！？

こんな序盤で伝説の装備が２つも手に入っていいんですか！？

「大事に使ってくださいね」

俺が混乱していると、その女性が笑顔でそういって兜を無理やり俺に渡す。

何故無理やり渡すんですか？　・・・なんだか嫌な予感がするんですが。

「なんだか危険な臭いがしますね。呪われてるんじゃないですか？」
海斗が兜を見て言った。・・・俺もそう思います。
「どうします？　装備しますか？」
「とりあえず一か八かで装備してみる」
何の一か八かなのだろうか。俺にも理解できない。
多分９０％の確率で呪われているだろう。
『俺は天空の兜を装備した』
『天空の兜には呪いがかけられていた』
・・・やはりそうでしたか。
不意に何処からか声が聞こえた。
【初めまして。わたしは兜の中に住んでいる呪いです】
呪いに自己紹介された。
【今日から貴方の頭の中で過ごすことになりました】
正直止めてください。
【これからよろしくお願いしますね】

・・・これからどうしよう？

「兄さん、何か変わったことあります？」

キイトが心配そうな顔で聞いてくる。一応兄を心配することは出来るようだ。

「今日から俺の頭の中に呪いが住むそうだ」

「・・・どういうことですか？」

「・・・俺に聞くな」

俺にも分からないことを人に教えるのは不可能だ。

不意に見覚えがある姿と聞き覚えがある声が・・・。

「旅人さん、ここで一体何があったの～？」

貴方は何も知らないんですか？　どんだけ鈍感なんですか！？

多分ここにいるほとんどの人が知ってると思いますが・・・。

「あのね、旅人さん～。もうすぐ1時間が経つんだ～」

スラリンが急に話し出した。

というか貴方は自分で聞いてきたのに答えを聞かずに話し出すんですね。

「ぼく1時間しかこの姿になれないんだ～」

「よ～し分かった。もうこの村を出よう」

正直ここにいてら何か厄介なことになりそうだ。

だって本来ライアンが倒すはずの敵を倒しちゃったし・・・。

「私も行くべきですか？」

「ぜひ来て下さい」

即答してやる。こいつがいないと俺が危ない。

スラリンはすぐに俺を見捨てるから・・・。

【次の村に行くんですか？だったらいいところがありますよ。案内しますね】

・・・こいつは案外役に立つかもしれない。

人生はいつ何が起こるか分かりません。（後書き）

次は５の内容に突入ですｗ

ちょこっと番外編～その後のライアン～

第一章　王宮の兵士達

これはバトランドという小さな国の王宮兵士の物語。

ライアンつまりあなたもその王宮兵士の一人でした。

ある朝　王様は兵士達をお城の広間に呼び集めました・・・。

大臣「これより王様からそなた達にお話がある。　心して聞くように。

王「皆の者　楽にしてよいぞ。

王「さて　話というのは他でもない。

王「最近子供達がいなくなるという噂はお前達も聞いておろう。

王「だがある若い少年達がその元凶となる者を倒してくれたのだ。

王「だからもう何も心配はいらぬ。今まで通りこの国を守ってくれ。

王「ゆけ！　我が戦士達よッ！

こうしてライアンはずっとこの国を守り続けました。

めでたし　めでたし。

ちょこっと番外編～その後のライアン～（後書き）

≪ちょこっとトーク≫

ア「・・・これってめでたしでいいのか？」

ス「でもライアンさんはきっと国のために戦えて幸せだと思うよ～？」

ア「いやいや国より世界のために戦えた方が幸せだって！」

キ「そうですよ！国を守って死んだなんて凄くかっこいいじゃないですか！！」

ア「なんで過去形なんだよ！まだ死んでないぞ！！」

キ「あれ？そうなんですか？」

ア「そうだよ！どこに死んだって書いてあるんだよ！」

？「すごい思考回路だね」

ス「しこーかいろって何～？」

キ「じゃあこれから死ぬんですか？」

ス「しこーかいろっておいしいの～？」

ア「死なないよ！ライアンは世界のために戦って帰ってくるんだよ！」

？「美味しいんじゃない」

キ「へぇ～、凄いですね」

ス「そうなんだ～！一回食べてみたいな～」

ア「・・・なぁ、後ろで凄い会話が聞こえてくるんだが・・・」

キ「・・・そうですね。ところであの子は誰ですか？」

ア「言われてみれば・・・」

？「はぁ～、ライアンさんが旅に出てくれないと僕の出番が・・・」

ア「ストップ！そこの奴！今出てくんな。お前の出番はまだ先だ」

キ「すごい普通にいましたね」

？「みんなぁ～、次の内容は僕が出てくるからね～」

ア「宣伝すんな！とっとと帰れ！！」

終　変な終わり方でスイマセン・・・。

~～おまけ～　≪今のレベル≫

『アラン』
ＬＶ：４　ＨＰ：４０　ＭＰ：２０
力：１５　素早さ：１５　身の守り：７　賢さ：５　運の良さ：１
攻撃力：１３０（剣なし：２０）　守備力：４０（兜なし：１０）

《覚えている呪文》

ルーラ・リレミト・トラマナ

『スラリン』
ＬＶ：３　ＨＰ：３４　ＭＰ：１７
力：１２　素早さ：１３　身の守り：５　賢さ：２　運の良さ：３
攻撃力：２０　守備力：１０

《覚えている呪文》

『キイト』
ＬＶ：５　ＨＰ：４０　ＭＰ：１００
力：１０　素早さ：１７　身の守り：１０　賢さ：３０　運の良さ：７
攻撃力：２５　守備力：１５

《覚えている呪文》

スカラ・ピオリム・バイキルト・マホカンタ・ラリホー、ラリホー

マ・メダパニ・マヌーサ・ルカニ・ボミオス・

話の流れに流され過ぎないようにしましょう。

・・・とりあえず近くの村に到着。

とりあえずここは何の村だろう？

「ようこそ　アルカパの町に」

また聞く前に言われた。・・・何なんですか。

というか4からいきなり5へいっちゃいましたね。

とりあえずやることがなかったので適当に歩いていると、一人の少女の声が聞こえた。

「止めなさいよ！　可哀そうでしょう。　その子を渡しなさい！」

・・・はい、ビアンカです。おまけに隣には主人公がいます。

「おい、この猫を渡せって。どうする？」

「そうだなあ。いじめるのも飽きてきたし、欲しいならあげてもいいけどさ」

「そうだ！　レヌール城のお化けを退治してきたならなッ！」

「そりゃいいや！　レヌール城のお化けと交換だな！」

「こうなったらお化け退治をするしかないわね」

少年達の元から離れてビアンカが言う。

「アベルも手伝ってくれるでしょ？」

「僕は行かない」

やる気の無い主人公だ。俺も人のこと言えないが・・・。

「そんなのダメよ！　私がついてるから大丈夫。　ねッ、一緒に行きましょう！」

・・・強制連行だ。主人公っていうのはどうしていつもこういう目に遭うのだろう？

「ぼくたちもお化け退治に行こうよ～」

スラリンの眼が輝いている。こうなったら行くしかないのだろうか？

「いいですね。だいだい子供2人じゃ危ないですし・・・」

・・・もう無理だ。1対2では敵わない。

「ところで君はだれ～？」

今さらかよ！！　今まで普通にいましたよね？

「私ですか？　私はキイトです」

「そうなんだ～」

「ぼくはスラリンだよ～。よろしくね～」

「はい。よろしくお願いします」

【レヌール城に行くんですか？　それならここからずっと北にありますよ】

ご親切にどうもありがとうございます。

「今から行こうよ～。ぼくもう待てないよ～」

「え、今から行くんですか？　お化けは夜にならないと出てこないと思うんですが・・・」

「え、そうなの～？じゃあ夜になったらすぐに出発だね～」

あなたは一体そこに行って何がしたいのでしょうか？

というかさっきから勝手に話が進んでる。

ちなみに俺はこの村に来て一回も言葉を話していない。心の中で突っ込んでいるだけだ。

「兄さんも手伝ってくれるでしょう？」

「俺は行かない」

「そんなのダメです！私もついていきますから大丈夫です。だから一緒に行きましょう！」

あなたはビアンカですか。しかもさっきの会話とほとんど一緒じゃないですか。

・・・というかあなたがいたら別の意味で怖いです。

「じゃあ今のうちに寝て起きましょう」

・・・これからどうなるんでしょう。

話の流れに流され過ぎないようにしましょう。（後書き）

5に入りました！でもまた4に戻る気です。たぶん交互になると思います。内容は気まぐれです。私がしたいところだけします。さすがに全ては出来ないので。・・・正確にはただ私のやる気がないだけです。すいません。ちなみにして欲しい内容などがありましたら行って下されば【出来る限り】やろうと思ってます。まぁ、とりあえずこんな私ですが頑張りますんで、応援よろしくお願いします。

時には行動することも大切です。（前書き）

途中の説明がかなりアバウトです。

時には行動することも大切です。

その日の夜・・・

「兄さん　起きて下さい・・・。　兄さん・・・」

誰かが俺を呼んでいる。　いや、起こそうとしている。

だがこれで起きてしまえば地獄に連れて行かれる。俺はそんなところには行きたくない！

「こうなったら最終手段でいきましょう。スラリン、よろしくお願いします」

いきなり最終手段かよ！？　もっと考えてこなかったのか。

突然、スラリンが俺の上に乗っかる。

何をする気だろ・・・・・息が出来ない。俺はとっさに顔からスラリンをどけた。

「俺を殺す気か！？」

「ねぇ、早く行こうよ～」

「さあ、行きましょう」

無視ですか？

とりあえず何回か戦闘しながらレヌール城に向かった。
普通は何日かかけて徐々にレベルを上げたり
Gを集めて装備などを買ってから行くもんなんだが・・・・。

そしてレヌール城到着。
表側のドアに向かう。

『ドアは　サビついていて　開かない！』

「困りましたね。どこか他のところから中に入れないでしょうか・・・」

やっぱりこいつはビアンカだ。

とりあえず城の裏側に回った。

そこには梯子があった。その梯子を一番上まで上って中に入る。

すると今入ってきた入り口が鉄格子によって塞がれてしまった。

それと同時に雷が鳴り響く。

「なんだか嫌な感じですね・・・」

・・・珍しく原作通りに進んでいる。

この話のことだから表のドアがいきなり開いていたり、梯子がなかったり、
鉄格子の代わりに何か変なものが出てきたり、雷が直撃したりしないか心配だったんだが・・・。
まぁ、まだ油断は出来ないが・・・。
とりあえずそのまま進んでみる。
階段を下りようとした瞬間、棺桶がガタガタと動き出した。
そして突然起き上がり、棺桶たちがこちらに向かってきた。
「うわぁ～～ッ！！」
もちろん叫びましたよ。原作を真似して叫びましたよ。
百歩譲って骸骨が向かってくるなら分かりますが、何で棺桶が向かってくるんですか！？
意味が分かりません。もうやりたいことが理解不能です。
だいたいどうやって動くんですか？　どこかに足でもあるんですか？
『棺桶たちが現れた！』
そして何故戦闘モードに突入するんですか！？
「・・・何ですか、この状況は？」

・・・俺が聞きたいです。

「わぁ～、すごいね～！　棺桶って動けるんだね～」

・・・実際は動きません。

「そういえばさっき新しい呪文覚えたから見ててね～」

『ぼくはニフラムを唱えた！』

『棺桶達を光の中へ消し去った！』

『棺桶たちはいなくなった！』

すごいですね。全滅じゃないですか。というかこの棺桶って消してもいいんでしょうか？

「・・・なんだったんでしょうね？」

・・・もう考えるのは止めよう。

時には手を抜いてみましょう。（前書き）

ホイミンの性格（登場シーンを除く）が少し崩壊していると思います。そのままだとスラリンとキャラがかぶるので・・・。

時には手を抜いてみましょう。

棺桶たちを倒した俺達はとりあえず次の階へ向かった。

「勇ましい戦士の像がたくさん置いてますね」

・・・何か違和感を感じる。何かがおかしい。

たくさんの像に紛れて何かおかしいやつが・・・。

「ねぇ、さっきこの石像の目光ったよ～」

「何かありそうですね」

「僕はホイミン。今はホイミスライムなの。でも人間になるのが夢なんだ」

「うわ～、石像が動いたよ～！」

「ねぇ、人間の仲間になったら人間になれるかなぁ・・・？」

「何なんですか？　この石像は！」

「そうだ！　僕を仲間にしてよッ」

「み～た～な～！」

「わ～い！　ありがとう！」

・・・会話がごっちゃになってすごいことになってる。

『動く石像が現れた！』

・・・とりあえず俺も戦闘モードに。

なぜここにホイミンがいるんですか？

ホイミンはこんなところで一体何をしていたんですか？

『ホイミンが仲間になった！』

というか何もいってないのに勝手に仲間にならないで下さい。

なんで動く石像の一言で仲間になっちゃってるんですか！？

『動く石像を倒した！』

・・・あれ？　いつの間にか終わってる。

「次行こうよ～」

・・・文字だけじゃスラリンとホイミンの違いが分からない。

そこにはお墓が２つ置いてあった。

「これ何～？」

スラリンがお墓の前に立って言った。

「それはお墓っていうんだよ」

そしてホイミンが答える。

「何するところ～？」

「中に入ってみれば分かると思うよ」

「じゃあ、中に入ってみるね～。どうやって中に入るの～？」

「僕が入れてあげるよ」

「わぁ、中真っ暗だ～」

・・・何してるんだ？　というか墓に入る&入れるな。　なんと罰当たりなことを・・・。

「お化けの墓って書いてるよ～」

なぜお化けの墓があるんですか！？　お化けは墓に入らずにそのまま成仏してください。

「こんな小さいところに入れるのでしょうか？」

そこは問題じゃありません。

「こっちは親分ゴーストの墓って書いてるよ」

なぜボスの墓を作ってるんですか！？　なんかもう死ぬ気満々じゃ

ないですか！！

「親分ゴーストってお化けの一番えらい人かな～？」

「どうだろうね。将軍ゴーストとかいるかも知れないよ？」

「え～！？　そんなのもいるの～？」

「上には上がいるからね」

・・・もう何も言いません。

～次の部屋～

窓のそばで女の人が立っている。

その女性に声をかけようとその窓に近づく。

『王妃は俺達を優しく見つめると　そっと目を閉じた・・・』

そしてそこに現れたのは・・・

「ほほぅ・・・。ここまで来るとは大したガキどもだ」

『親分ゴーストが現れた！』

・・・何故！？

言葉より強いものはありません。

またいきなりですか！？　このゲーム（？）は本当にいきなりが好きですね。

というかあなたから勝手に来たのに褒められる筋合いはありませんが・・・。

【まぁこのゲームは一章一章を早く終わらせたいんですから、いきなりや無理やりな展開がきてもしかたありませんね】

≪それは俺が答えてやろう。まぁでも今はめんどくさいから後でいいな≫

ちょっと邪魔です。どっか行ってください。教える気がないなら尚更どっか行ってください。

というか会話が微妙に成り立っていません。

それにしても本当に無理やりな展開だ。一体何がしたいのか分からない。

突然現れた親分ゴーストを見てスラリンの眼がキラキラし始めた。

「わぁ～、この人きっと親分ゴーストだ～」

そして親分ゴーストの足元でキラキラしている。

あんまり近づくと踏まれますよ。あなたは踏まれやすいんですから。

「そうだとも。俺が親分ゴーストだ。そしてこの世界で一番偉いんだ！」

「どこからあんな自信があふれだしてくるんでしょうか？」

「あれって自画自賛ってやつだね。上には上がいるって言葉を知らないのかな」

「全くですよ。あのような方には現実ってものを教えてあげたいですね」

それはどこかの親の会話ですか？

「へ～、そうなんだ。じゃあ最強だ～」

「それはないよ、スラリン。さっきも言ったけど上には上がいるんだよ」

「上には家がいるの～？」

家がいて堪るか。そんなのがいたら即死じゃないか。

間違っても普通の人間ならリアルな縁の下の力持ちにはなれない。

というか一文字違いで偉いことになってるぞ。

「何を言うんだ！　俺が一番偉いに決まって・・・」

親分ゴーストが反論だ。

「それにこんな弱そうな奴が一番偉いわけないよ」

《ガーン》

「何を・・・」

「そっか～、そうだよね～」

「そうだよ。魔法使いと同じような見た目のくせに、それより弱そうだよ」

「そういえばなんで魔法使いといっしょなのかな～？」

「なんでって？」

「だって親分ゴーストってお化けなんでしょ～？でも魔法使いは生きてるよ～？」

「そういえばそうだね。死人（おばけ）と魔法使いが一緒っておかしいね」

「実はこの人、お化けじゃなくて魔法使いなのかも～」

「親分魔法使いって感じかな」

「・・・なんて・・・こと・・・だ」

≪ガクッ≫

『親分ゴーストに２００のダメージ！』

『親分ゴーストを倒した！』

・・・何故？

小さな間違いで大きな間違いになることもあります。（前書き）

睡魔に襲われながら考えていたので少々適当気味です^^；　終わったら爆睡したいと思います。

小さな間違いで大きな間違いになることもあります。

・・・何が起きたんですか？

『親分ゴーストを倒した！』

『３００の経験地を獲得！』

『１８０ゴールドを手に入れた』

・・・まぁいいや。とりあえず無傷で終わってよかった。

《たッ・・・助けてくれー！　このゲームの世界からは出て行くから！》

・・・どこに行く気ですか？

《あいつが出て行けばこんな何も無い城にはもう魔物もやってこないはず》

誰に罪を擦り付けようとしているんですか。

《俺達や魔界のはみ出し者でただ楽しく暮らせるところとこの世界が欲しかっただけなんだよ》

今すぐ帰って下さい。・・・こんなところにプチ魔王発見しました。

《許してくれるだろ？　なッ　なッ？》

世界征服を企む奴を許すことは難しいと思います。

「嫌」

「ダメ～」

「許しません」

予想通りの返答ですね。

《そんなことといわずに頼むよ坊っちゃん！》

出ましたよ。永遠に終わらないセリフが。

「嫌」

「ダメなものはダメだよ～」

「反省するまで許しません」

《そんなことといわずに頼むよ坊っちゃん！》

・・・原作通りなのはいいですけどうっとおしいですね。

「嫌。というかそのセリフさっきと同じなんだけど」

あなたも人のこと言えませんよ。

「ダメ人間になっちゃうよ～」

微妙にズレてきましたね。

「しつこいですね。なんと言われても許しませんよ」

さて、いつまで続ける気でしょうか。

《へっへっへ。ありがたい。あんた立派な大人になるぜ・・・》

あれ？　勝手に逃亡です。まぁどうせ永遠に続けても同じなんでどうでもいいですけど。

ゴーストが消えた代わりに王妃と王が出てきた。

そして俺達を上へ連れて行く。

《よくぞやってくれた！　足から礼を言うぞ》

そんなところから礼を言われても嬉しくありません。

「失礼ですが誰でしょうか？」

ほら見て下さい。いきなりボスを出現させるからこういうことになるんですよ。

「本当にありがとう。あなた達のおかげで爆睡できそうです」

おなたは本当に王妃様ですか？

「おばさん誰〜？」

こいつに至っては王妃すら知らないじゃないですか。

というかさっき王妃が一瞬何かに反応しましたよ。

たぶん次おばさんと言ったら地獄行きですね。

「城者安眠（じょうしゃあんみん）」

そんな四字熟語存在しません。何勝手に作ってるんですか。

というか王妃様怒ってますか？

「どういう意味〜？」

・・・そうなりますよね。

「さあいこうか、お前」

「はい、あなた・・・」

無理やり《ジ・エンド》です。

「さようなら。あなたたちのことは早く記憶から抹消します・・・」

王妃様絶対怒ってますよ？　どうするんですか。

そして2人は消えていった。

「よかったですね。誰かは知りませんが2人幸せに眠り続けるはずですよ」

「ねぇ、そういえば君きみ～？」

「あれ、なんでしょう？　きれいな宝石が降ってきましたよ」

「僕？　ずっといたのに気付かなかったの？　それはないよね？」

「きっとお礼ですね。持って行きましょう」

「・・・酷いなぁ。僕もう知らないよ」

また会話が妙にシンクロ率が高い気がする。

まぁ、後ろは置いといて・・・

オーブは持っていっていいんでしょうか？　あとで真・主人公が困るのでは？

『私は金色に光るオーブを拾って俺に手渡した』

『俺はゴールドオーブを手に入れた！』

まぁ、貰える物は貰っておきましょう。

・・・どうせあとで壊されるんですから。

小さな間違いで大きな間違いになることもあります。（後書き）

キャラ紹介ＰＡＲＴ４！

『ホイミン』

本名（？）：保李明（適当ですｗ）　職業：魔物

年齢：不詳（人間にするとたぶん１４歳くらい）

血液型：不明（人間ならたぶんＢ型）

@詳細@

基本的にスラリンと同じですが、ホイミンの方が少しクールです。こちらはもともと４のキャラなので今は人間にはなれません。どうして話せるのかは、少なからず５の影響（マーサの力）を受けていると考えて下さい。

@一言@

普通に出すとスラリンとキャラが被ってしまうので、キャラが崩壊しない程度に違いをつけてみました。既に崩壊してたらスイマセン。そのときはいっそのこと別人と考えて下さい。ていうか、スラリンとホイミンの登場が逆の方がよかったような気がします。

ちょこっと番外編～その後の（真）主人公～

アベル達が辿り着いたとき、そこに誰もいなかった。

「あら？　誰かが退治しちゃったのかしら？」

「困ったわね。私たちがお化け退治しなきゃあの猫さんは助からないじゃない」

「・・・じゃあ、僕達が退治したことにしたらいいんじゃない？」

「それいいわね！」

『レヌール城のお化けを退治したという噂はその夜のうちに広まった』

『そして夜が明けた・・・』

「さあ　約束だわよ！　その子猫もらっていってもいいわね？」

「おい　どうする？」

「しかたないか・・・」

「よし！　約束したからな。　この猫はあげるよ！」

「よかったわね猫さん。もういじめられないわよ」

「さあ行きましょう」

「そうだわ！」

「この猫さんに名前をつけてあげなきゃ！」

「じゃあ・・・アンドレってどうかしら？」

「それでいいんじゃない？」

「わかったわ　アンドレね！　本当にこれでいい？」

「しつこいなぁ。それでいいって言ってるだろ？」

「決まったわね！　今日からあなたはアンドレよ！」

「・・・それにしても本当にするとは思わなかったよ」

「何か言った？」

「別に・・・」

ちょこっと番外編～その後の（真）主人公～（後書き）

≪ちょこっとトーク≫
ア「・・・これっていいのか？」
ス「でもビアンカちゃんはきっと猫を助けれて嬉しかったと思うよ～？」
ア「まぁ嬉しかったのは分かるが・・・」
キ「猫を助けるためにお化け達を退治するなんていい子達じゃないですか！！」
ア「退治したの俺達なんだけど！！」
ホ「正確には僕とスラリンだよ」
キ「あれ？そうなんですか？勝手に倒れたのでよく分かりませんでした」
ア「まぁな・・・」
ス「でも何もしてないのに倒れるなんて変な人だったね～」
キ「それにしてもビアンカちゃんは勇気がありますね」
ホ「あれは精神攻撃っていうんだよ」
ス「せーしんこうげきって何～？」
キ「誰かさんとは違って」
ホ「さぁなんだろうね？自分で調べてみたら？」
ス「教えてくれないの～？」
ア「・・・悪かったな」
ホ「人の存在を忘れていた人には教えないよ」
ア「というかこの流れライアンのときと一緒じゃねぇか！」
キ「最初ら辺なんて内容もそんな変わってませんね」
ホ「次も見てね」

続

『アラン』
ＬＶ：９　ＨＰ：７５　ＭＰ：４０
力：３５　素早さ：３０　身の守り：１０　賢さ：１０　運の良さ：２
攻撃力：１８０（剣なし：４５）　守備力：７０（兜なし：３０）

《覚えている呪文》

ルーラ・リレミト・トラマナ・ラナルータ・トヘロス・インパス

『スラリン』
ＬＶ：８　ＨＰ：７０　ＭＰ：２５
力：３１　素早さ：２０　身の守り：１５　賢さ：５　運の良さ：５
攻撃力：４５　守備力：３０

《覚えている呪文》

ニフラム・メラ、メラミ・ギラ、ベギラマ

『キイト』
ＬＶ：１０　ＨＰ：４０　ＭＰ：２００
力：２７　素早さ：３５　身の守り：２０　賢さ：６０　運の良さ：１０
攻撃力：５０　守備力：３５

《覚えている呪文》

スカラ、スクルト・ピオリム・バイキルト・マホステ（４のみ）・マホキテ（５のみ）・マホカンタ・フバーハ・ラリホー、ラリホーマ・メダパニ・マヌーサ・ルカニ、ルカナン・ボミオス・マホトー

ン・マホトラ

『ホイミン』
ＬＶ：９　ＨＰ：６５　ＭＰ：７０
力：３４　素早さ：２５　身の守り：１３　賢さ：９　運の良さ：４
攻撃力：４０　防御力：３５

≪覚えている呪文≫
キアリー・キアリク・ザメハ（４のみ）・ザオラル、ザオリク・シャナク（５のみ）

※スライムなのにメラやギラを覚えているやホイミスライムなのにホイミが使えない事に関してはあまり触れないで下さい。

堂々としてると案外ばれないんです。（前書き）

『三章～サントムハイム城の魔物退治～』スタートです。いきなりサントムハイム城から始まります。というかボスが出てくる順番がおかしくなってます。果たして倒せるのでしょうか？たぶん無茶苦茶しますよwあと、なんか欠けてる気がします。

堂々としてると案外ばれないんです。

・・・なんですか、この光景は。

強そうな魔物たちがズラズラと城の中に入っていく。

もちろん草陰に隠れてますよ。堂々と立っていられる訳ないじゃないですか。

というかここは何処でしょうか？

「急げ、急げ！」

「早くしないとバルザック様に怒られるぞ」

・・・っ！？　さっきなんて言いましたか？

「え～と・・・、どうしますか？」

「とりあえず様子を見たい。というか関わりたくない」

「珍しく同意見です」

珍しくってどういう意味だよ！！

「あの人たち（まもの）何してるのかな～？」

「じゃあ、聞いてこようか？」

「え！？　本気ですか？」
「大丈夫だよ。これでも魔物だからね」
「そっか～。じゃあ、ぼく聞いてくるね～」
「一人で大丈夫でしょうか？」
いろんな意味で心配だ。
「ホイミン、お前も一緒に行ってこい」
「嫌だよ。何で僕が一緒に行かなきゃならないの？」
あの時からホイミンがスラリンに対して冷たいです。
そんなことしてる内にスラリンが向こうに行ってしまった。
「ねぇ～、何してるの～？」
「なんだ、お前は？」
「ぼくはスラリン～。スライムだよ～」
見たら分かる。
「ここに何か用か？」
「ここで何してるの～？」

質問を質問で返してどうするんですか？

「この城を占領するんだ」

さらっとすごいこと言いましたね。

「ふ～ん。そうなんだ～。頑張ってね～」

応援してどうするんですか？

「・・・なんなんだ、お前は」

魔物はそういった後、いそいで城の中に入っていった。

・・・正直、相手が急いでて良かったです。

そしてスラリンが堂々と帰ってきた。　バレたらどうするんですか！？

「ねぇ、占領って何～？」

「・・・泥棒と似たような感じだよ」

不機嫌でも答えるんですね。

「それって悪いことだよね～？」

「・・・うん。悪いことだよ」

「じゃあ、懲らしめなきゃ～」

「・・・そうですね。正直関わりたくないですが、野放しには出来ませんよね」

「俺は行かないぞ」

「相変わらず臆病ですね」

今回はなんと言われても行く気はない。相手が悪すぎる。

「僕もパス」

「ホイミンさんまでっ！？」

「なんで～？」

「君達バルザックって知らないの？」

「バルザック～？」

「今の僕らには強すぎる奴だよ。正直今のレベルじゃ負けちゃうね」

確かにＬｖ１０以下の仲間（パーティー）でバルザックには挑めない。

せめて後１２～３Ｌｖ欲しいです。

「でも悪い奴はやっつけなきゃ」

「なぁ、今思ったんだが俺らって死んだらどうなるんだ？」

「そういえば気になりますね」

「ゲームみたいに生き返ればいいんだが・・・」

「もし・・・」

俺はわざと怖い顔をして言う。というか実際考えると怖い。

「そう考えると行く気がなくなりました」

案外物分りいいじゃないですか。

「でも～」

スラリンはきっと正義の塊です。

「・・・じゃあダメもとで行ってみる？」

・・・え！？

堂々としてると案外ばれないんです。（後書き）

（することないので）前に呪いと悪魔が言っていた事についての解説をしたいと思います。

【まぁこのゲームは一章一章を早く終わらせたいんですから、いきなりや無理やりな展開がきてもしかたありませんね】
≪それは俺が答えてやろう。まぁでも今はめんどくさいから後でいいな≫
※この部分です

とりあえずこれをご覧下さい。

序章全９話～冒険のはじまり～　（圏外）
一章全３話～イムルの村の子供達～　（設定話数３話）
二章全５話～レヌール城のお化け退治～（設定話数４話）

設定話数に収めようとした結果が今までの無理やり＆いきなりな話です。でも早くも設定が狂ったのでもう自由にやります。

ちなみに二章のなんとか設定話数に収めようと出た案が棺桶の中からゴースト親分や動く石像の正体がゴースト親分になったりしてました。

以上ですｗ

恩返しは大切ですよ。（前書き）

※イメージ崩壊注意報（今さらですが）！？

新たな仲間乱入！？

意外な特技！？

おまけ付き！？

（・・・？）

恩返しは大切ですよ。

・・・正直ダメもとでは行きたくない。

「どういうこと～？」

「そのままの意味だよ」

「死んだらどうなるんだ？」

「ザオリク使えるんじゃない？」

「もし使えなかったら・・・？」

「う～ん・・・実験してみる？」

ホイミンは少し考えてから何かを見つけて言った。

「ちょうどあそこに何か倒れてるし・・・」

え！？　なんで！？

なんでそんないいタイミングで倒れてるんですか！？

「・・・おれは・・・もう・・・ダメだ」

何があったんですか！？

「もういいよ～！いいから何も喋らないで～！！」

・・・・・？

「誰か・・・おれの・・・分・・・まで・・・幸・・・せ・・・に・・・なれ・・・よ・・・」

「そんなこと言わないでよ～。
だれかといっしょに幸せになるって約束したよね～？約束破るなんてひどいよ～！」

「ごめ・・・ん・・・な・・・誰・・・か・・・」

≪ガクッ≫

「だれかぁぁあああ～！！」

・・・もういいですよ。

あと誰か誰かをそんなに連呼しないで下さい。

というかお互い知らない人なのによくここまでできましたね。

「・・・何この茶番劇」

「・・・劇ではないですけどね」

「・・・まぁ、いいや。とにかく実験しないと・・・」

『ホイミンはザオリクを唱えた！』

「なぁ、これでもし生き返らなかったらどうすればいいんだ？」

これで生き返らなかったら笑い事じゃすまないよな・・・。

「お城の魔物退治は諦めるしかありませんね」

・・・え？　そっちの方が大事なの？？

こいつは放置でいいのか？

『誰かが生き返った！』

あ、生き返った。

「あれ？　生き返った・・・？」

「誰かわかんねぇけど助けてくれてありがとうな！」

「いや、別にそんなつもりじゃないんだけど・・・」

「なんだよツンデレか？」

ホイミンは本気でお前を助ける気なんてなかったと思うぞ。

「知ってる～？死んだ人が生き返ったらゾンビになるんだよ～？」

なんでそんな知識だけ持ってるんだろうか？　そしてなんで疑問系なんだよ。

「お前スラリンか！？」

どうやら知り合いらしい。というかさっき合った時点で気が付かなかったのか？

「なんでぼくの名前知ってるの～？」

「久しぶりだな！　元気にしてたか？」

「きみだれ～？」

「おれのこと忘れたのか！？　おれだよおれ！！」

あなたはオレオレ詐欺ですか。

「もしかしてお隣の古多老（こたろう）さん～？古いが多い老人で有名の～」

古多老さんって誰ですか！？

しかも『古いが多い老人』って直訳すると『かなり老けてる老人』って意味じゃないですか！！

「そうそう古多老さん・・・って違うわ！！　誰だよ古多老さんって！！」

「え～？　知らないの～？　結構有名神だよ～」

なんですか有名神って！　人じゃないんですか！

「じゃあ・・・ブルッピ～？　いや、アキーラかな～？」

「おれはスラボウだ！！」

「あ～！　そういえばそんなのいたね～」

可哀そうじゃないですか。

「それは本気で言ってんのか？」

「スラリンの頭の中って一体どうなってるんだろね」

・・・同感です。

「そういえばこんなところで何してるの～？」

「迷子になった」

「そうなんだ～。お疲れ～」

お疲れって何ですか！？

「ここはどこだ？」

「う～ん。そういえばここどこ～？」

「お前も迷子か！？」

ある意味な・・・。

「ここはサントムハイム城だよ。ちょっと前は人がたくさんいたんだけど・・・
今は魔物が住み着いてるよね」
正確にはさっき占領されたばっかりだけどな。
「そうなのか！　だからお前らはここを魔物の手から取り戻そうと・・・！？」
「うん～！悪い奴らは倒さないと～！」
「いや、そういうつもりじゃないけど・・・」
「よし！　助けてくれた恩を返したい。　おれを仲間にしてくれ！」
会話が微妙に合ってません。
「いや、僕に言われても・・・」
「いいよ～。いっしょに倒そうよ～」
何勝手に決めてるんですか！？
『スラボウが仲間になった！』
・・・このままいくと勝手に知らない仲間がたくさんいそうですね。

恩返しは大切ですよ。（後書き）

≪おまけ物語≫～性格（キャラ）について？～
※やりたい放題やりました。

ア「お前のキャラって仲間になる前とかなり雰囲気違うよな」
ホ「そう？　まぁ、自分でも思ってるけど」
キ「ていうか仲間になった瞬間から雰囲気変わりましたよね？」
ホ「そうだね。ああいうのは最初が肝心だからね。一応シナリオどおりに言ってみたんだけど」
キ「ちなみに今あのセリフを言ったらどうなります？」
ホ「こんな感じかな」

※こんな感じ←
「僕はホイミン。今はホイミスライムなの。でも人間になるのが夢なんだ」
「僕はホイミン。見た目どおりホイミスライムだよ。でも将来人間になりたいんだ」

「ねぇ、人間の仲間になったら人間になれるかなぁ・・・？」
「ねぇ、人間の仲間になったら人間になれると思う？」

「そうだ！　僕を仲間にしてよッ」
「実験してみようよ。ということで僕を仲間にしてよ」

「わ～い！　ありがとう！」
「そう言ってくれると思った」

@どっちの方がいいですか？

キ「かなり変わりましたね」
ア「予想以上だな」
ホ「最初の頃はどうかしてたんだよ。それは僕じゃないって思っていいよ」
ス「そう思って欲しいんじゃないのか！？」
ボ「・・・君って鋭いんだね」
ス「否定しないんだな！？」
ホ「否定したところで余計怪しまれるだけだし」
ア「お前はお前でスライムのイメージが崩壊してるよな」
ス「ほっとけ！！」
ア「あと一言いいか？『ス』だとスラリンとごっちゃになるぞ？」
キ「まぁ性格も話し方もほとんど正反対ですから分かるのは分かりますけど・・・」
ホ「パッと見じゃ分からないよね」
ス「一気に言うな！　頭が混乱するだろ！？」

≪次回予告≫
消えたスラリンの行方　「そういえばさっきからいませんね？」
深まる性格（キャラ）の雑談　「深まらなくていいんじゃねぇの！？」
襲い掛かる眠気　「それは知らないよ。というか次回予告なの？」
そして暴走する『やってみた』　「・・・おい」

続

※やってみた←
「ぼくはスラリン～。悪いスライムじゃないよ～。強いスライムになりたいんだ～」
「おれはスラボウ！！決して悪いスライムじゃない！もっと強くなるのがおれの夢だ！」

「ねぇ、いいことたくさんしたら強いスライムになれるかな～？」
「なぁ、その前にお前らに恩を返したい！」
「そうだ～！ぼくを仲間にしてよ～」
「だからおれを仲間にしろ！！」
「ありがとう～！ぼく一生懸命頑張るね～！」
「絶対この恩は返すからな！！！」

たまには違う道を行ってみましょう。（前書き）

違う道＝非道＝チートという解釈でｗ
これからもっと酷くなりますよ。

たまには違う道を行ってみましょう。

行く気満々の2匹とよく分からない1匹と行く気がない2人。

「悪いやつらを倒しに行こう～」

「このおれの手にかかればどんな奴でも一撃だぜ！！」

「全力で僕を守ってね」

・・・一人だけおかしい奴がいるのは気のですか？

「皆さん、本当に行く気ですか？」

「安心しろ！ここでは何だか物凄い技が使えそうなんだ！」

スイマセンが安心できません。

「じゃあぼくも～」

じゃあってなんですか。

「じゃあその技で僕を守ってね」

あなたは戦ってください。

『バルザックが現れた！』

いきなりですか！？　せめて前置きを下さいよ！！

というか何処から出てきたんですか！？

それとセリフカットですか！？　何か言って下さいよ！！

「先に言っとくけど僕、回復（ホイミ）出来ないから」

「なんでホイミスライムのくせに回復出来ないんだよ！」

「回復出来なかったらただのスライムといっしょだよ～」

「僕をスラリンと一緒にしないでよ」

「ちなみにスラボウさんもスライムですよ」

「ごちゃごちゃうるせぇよ！！」

それは敵のセリフですよ！？

「とっとと片付けるぞ！　スラリンお前の力を見せてみろ！」

「え～？ぼくの～？」

『ぼくはベギラマを唱えた！』

何で使えるんですか！？

『バルザックに３０のダメージを与えた！』

「所詮そんなもんか！　思い知れ、おれの力を！！」

だからそれ敵のセリフですって！！

『おれはバギクロスを唱えた！』

だから何で使えるんですか！？

『バルザックに７０のダメージを与えた！』

「じゃあ僕は・・・」

『僕は身を構えている！』

何で防御なんですか！？

「死にたくないからね。というか一人オーバーしてるよ。誰か抜けないと・・・」

ちゃっかり俺の心の中の質問（つっこみ）に答えないで下さい。

あなたは読心術でも使えるんですか？

「いいんじゃないでしょうか？　向こうもボスの順番無視してますし・・・」

「それもそうだね。目には目をってやつだね」

「いたそうだね～」

「・・・・・」

そっちの意味じゃありません。

「ところで私はどうしましょう？」

「そこの奴！　ピオラ使えるか！？　使えるならスラリンに使ってくれ！！」

「え？　はい、分かりました」

ピオラはここでは使えませんよ！？

『私はピオラを唱えた！』

『ぼくは2回攻撃が出来るようになった！』

何故ですか！？　しかもピオラ使えるんですね！？

「まるでチートだね」

・・・いや、チート以上です。

自分達だけで盛り上がってはいけません。（前書き）

・・・遅くなってすいません。いろいろありましたが言い訳はしません。え？　言い訳することすらないんじゃないかって？そ、そんなことないですよ？ほ、本当ですって！！・・・多分。　ていうか私、これでも受験生ですからね！？そのところを分かって欲しいものですよ。え、受験生なら真面目に勉強しやがれ？・・・えぇ～、そんなこといわれてもなぁ～・・・。まぁ勉強も遊びも両立して頑張ります！！※それは両立してはいけません。

自分達だけで盛り上がってはいけません。

・・・正直もうやる気しないです。↑テンション：１０

〈アランはやる気がなくなった〉

「スラリン！」↑テンション：１２０

〈おれはスラリンに話しかけた〉

「なぁに～？」↑テンション：５０

「今こそ自分の力を出し切るときだ！」

「自分の力～？　よく分からないけどやってみる～」

《ベチョーン》

ぎゃぁぁああ！！　↑テンション：４５

〈スラリンは潰れた！〉

・・・つ、潰れた。　・・・ある意味ホラーですね。

「うわぁ！　何やってんだお前！！」

〈おれは突っ込んだ〉

・・・どうやらこいつにも想定外だったそうです。

「こしゃくな真似をっ！まずはお前から消してやる！！」←テンション：８０

・・・敵さんを挑発してますよ。　←テンション：２０

〈アランは心の中で忠告した〉

『バルザックの攻撃！』

『ミス！　ぼくは潰れていてダメージを受けない！』

・・・これは何というか・・・。

あれ？　というか俺の順番（ターン）は？？

〈俺は忘れられた〉

うるせぇよ！　さっきから何なんだよ、これ！！　←テンション：４５

「まぁ結果オーライだ！お前なら出来ると思ってたぜ、パ〇ディンガード！」

元々するつもりだったんですか！？　それはここでは使ってはいけませんよ！！

「・・・これ何のゲームなの？」←テンション：１０

・・・俺も同感です。　←テンション：３５

〈ゲームの概要が分からなくなった〉

「よし、スラリン！アレをやるぞ！」

〈おれは何かを提案した〉

「アレって何～？」

「いくぜ！！」

〈おれは構えた！〉

「スラ・ストライク！！！」

〈そして放した〉

えぇぇええ！！　そんな技ありですか！？

・・・というかあなたが提案したのにあなたはしないんですね。

〈おれは仲間（スラリン）を使って攻撃をした〉

『バルザックに３００のダメージを与えた！』

ダメージ与えすぎです！　今までの攻撃と桁違いじゃないですか！！

「こしゃくな真似をっ！まずはお前から消してやる！！」

・・・そのセリフ２回目です。

〈バルザックは頭がおかしくなった〉

『バルダックの攻撃！』

バルダック！？　いきなりアヒル化ですか！？

〈システムもおかしくなった〉

・・・ていうか、もう順番がグダグダです。

「こい！　おれに敵うと思うな・・・」

『おれは１００のダメージを受けた！』

・・・あ。

『おれは力尽きた！』

・・・あなたは一体何がしたいんですか？

「・・・油断した・・・まさか・・・ここまで・・・力があった・・・とは」

「今は劇やらないよ～」

「ゲフッ」

なぜダメージを受けてるんですか！？

「・・・だが・・・世界は・・・必ず・・・我の・・・物・・・に・・・」

《ガクッ》

「・・・これ生き返さないといけないの？」←テンション：5

「・・・可哀そうですし行き返してあげましょうよ」←テンション：30

・・・こんなのでいいのでしょうか。

自分達だけで盛り上がってはいけません。（後書き）

テンションゲージ付けてみました。略してＴＧです。主人公のテンションはコロコロ変わります。バカ２匹は基本的には変わりません。ホイミンは低い値で変わります。キイトは・・・普通です。　ちなみに私のテンションは睡魔の影響により左右されます。

では次回いつになるか分かりませんが、次回も暇なら見てください。

貸しは溜めすぎるとよくないですよ（前書き）

毎度毎度スイマセン。
今回は完全に睡魔に負けました。もう途中から何を書いてるのか分からなくなりました。しかも話がかなりグダグダ＋どうでもいい感出てます。
え？睡魔の所為じゃない？じゃあ一体何が・・・。え？あ～、お前の才能がないからと？
はっはっは～。そんなこと・・・分かってますよ。どうせ私には才能なんてないんですよ。・・・
あ～、なんか自分で言ってて悲しくなるからこの話終わり！もう触れないで、そこだけは！！

貸しは溜めすぎるとよくないですよ

なんかもう帰りたいんだけど・・・。

『僕はザオリクを唱えた！』

『なんとおれが生き返った！』

「おぉ！！　何でか分からないけど生き返・・」

「貸し１」

生き返るたびに貸し作られたらむやみに死ねなくなるじゃないですか。

まぁ、死ぬ気はないけどね。・・・だって痛そうだし。

（あえてそことスラボウには触れないで）というかこんなホイミスライムどこ探してもいないよ。

「貸しってどういうこと・・・」

「はい、まだ敵いるよ。とっとと倒してきて」

戦闘参加する気０ですね。俺も人の事いえないけど・・・。

「まっててね～、スラボ～ウ。ぼくが君のかたき討つからね～」

スラボウ生きてますよ。確かに１回死んだけど・・・。

というかそんな笑顔で言われても・・・。

「スラボウさん、向こうでも元気でいてくださいね」

いや、だからスラボウ生きてるから。

「あと、兄さんによろしく伝えといて下さい」

え、何？　俺も死んだことになってるの？

「くらえ～。スラボウの仇～～」

仇討つ気０ですね。何ですか？そののんびりした声は・・・。

『改心の一撃！！』

えぇぇぇ・・・。そんなのんびりした動作で出ちゃうものなんですか、会心の・・・。

って、ちょっと待ってください。何ですか、その技は！？

「ぐはぁぁああっ・・・！？」

うわぁ～、喰らっちゃうんですか・・・。

『アクバットに１００のダメージを与えた！！』

アクバットってもう文字が１つも合ってないじゃないですか！？

バルダックから一体何があったらそうなるんですか！！

「私は一体何をしていたんだっ・・・」

あれ？　まさかの記憶喪失ですか？　もしかして改心しちゃいましたか？

「酷い女癖で浮気はもちろん、ナンパやセクハラばっかりしていたよ」

勝手に過去を変えないであげて下さい。

「なんと私はそんな酷いことを・・・。私はこれからどうすればいいのだっ・・・」

ほんとに効いたんですね、改心の一撃。

「これから宇宙の平和を守ってみろ！！」

うわぁ・・・。宇宙規模になっちゃいましたよ。

「宇宙のヒーローか。だが具体的に何をすればいいんだ？」

「星の数とか数えていたらいいんじゃない？」

すごく地味な宇宙のヒーローですね。というかそんなの一生終わらねぇよ。

「というか私は誰だ！！」

今更ですか！？　普通は一番最初に言うセリフですよ！？

「ナンパックとかその辺じゃなかったけ～」

うわっ！！　・・・凄く適当ですね。

「では皆ありがとう。私は宇宙に行ってくる」

こいつの将来が物凄く不安なんですが・・・。

貸しは溜めすぎるとよくないですよ（後書き）

≪宇宙のヒーローナンパック≫
普段は無類の女好き！どんな女の子にも手を出すぞ☆
でもいざ地球にピンチが訪れたら大活躍！物凄い速さで星の数を数えるぞ☆
どんな強敵でもくじけない！叩かれても殴られても諦めないぞ☆
いつもみんなの人気者！警察にはいつも噂が絶えないぞ☆
頑張れ！僕らのナンパック☆

その後のナンパック（前書き）

なんでこんなものやっちゃたんですかね？

その後のナンパック

私の名前はナンパック。好きなものは女の子。ロリから熟女なんでもおkだ。

以前はもっとかっこいい名前だったような気がするが、以前はとてつもなく悪い奴だったそうだ。

そうだというのは私には以前の記憶がないのだ。

ある方たちによって改心させられたときに、前に戻らないようにと暗示をかけてくれた。

さてそんな私だが、今は宇宙の平和を守っている。

私が作り上げられた宇宙要塞『★回収マシーン』に乗ってな。

「キャー、大変だわー。宇宙に巨大な隕石が現れたわー」

おっと、のん気に話している場合ではないな。

「お嬢さん、キレイですね。僕と一緒にお茶でもしませんか？」

「今はそれどころじゃないわー。あの隕石をどうにかしなきゃー」

さっそく危険が来たようだ。どれ、私の力を見せてあげよう。

「必数！！　★数え！！！」

この技は私の目の前にある星をとてつもない速さで数える技だ。

これでどんな敵もいちころだ。

「キャー、すごいわー。こんな勢いで星が数えれるなんてー」

ふふ、どうだ。女の子もメロメロ・・・。

「でもそんなことしたって隕石は消えないわー」

ドッカァァン・・・。

頑張れ僕らの宇宙ヒーロー、ナンパック!!

人の命は大切にしましょう。（前書き）

皆さん久しぶりです。
というかお待たせしてスイマセン。
とりあえず何とか例の件が終わりましたので
コツコツ投稿していきたいと思います。
そして今回からラインハット突入です。

人の命は大切にしましょう。

もう疲れた・・・。いつまで歩けば次の街に着くんだ・・・。

【もうすぐですよ。頑張って下さい】

うぉ！　久しぶりだな、呪い。

＜ただいま帰りましたデスー＞

誰だお前！？

＜世界一周旅行疲れたデスー＞

今さら帰ってきたの、天使！？

てか今までいなかったの！？　そんなの俺がすっごい悪い子みたいになってたじゃん！

【お疲れ様です。どうでしたか？】

＜地球は青かったデスー＞

それ、世界一周旅行してきた感想じゃないよね！？

明らか宇宙行ってるよね！？

「旅人さ～ん。見て～、街が見えたよ～」

スラリンが俺の足元をクルクル回りながら言う。

前に進めないんだが・・・。

「街というか城だね」

「とりあえずもうクタクタです。宿屋で一服していきましょう」

＜賛成デスー。ワタシもクタクタデスー＞

お前は参加すんじゃねぇ！　てか、自分から行ったんでしょうが。

とりあえず今日は宿屋に泊まることにした。

『タララララッタッター』

少なっ！？　睡眠時間この曲が流れている間だけかよ！？

というか歌ってんだけど！？　ナレーターが自ら歌ってるよ！？

～そんなこんなで次の日～

「おい！モタモタしてねえで早く王子をイカダへ！」

「へいっ！」

宿屋からでた瞬間に声がした。誰だ、朝からうるさいヤツは！？

俺はなんでか知らないけど寝不足なんだぞ。

というか、ここラインハットじゃん！？　ヘンリーＧＯＯＤタイミングで誘拐されてるなぁ～・・・。

とりあえず、なんか寝不足だからもう一回寝よ。・・・お金要るけど。

別に行きたくないわけじゃなくて、ただ単に眠たいだけだからな！？

「兄さん！　子供が誘拐されてますよ！？」

「うぉぉおお！！　待ちやがれ！！」

スラボウがヘンリーを誘拐したおっさん達について街の外へ行ってしまった。

「旅人さん～！　パパスさんが死んじゃうよ～！！」

は～い、ネタバレ禁止～。

「あと、このまま行くとスラボウも死んじゃうね」

「スラボウさんはいいとして、なんとしてもあの男の子を助けてあげましょう！」

え？スラボウはいいんですか？

まぁ、死んでも行き返せますけど・・・。

人の命は大切にしましょう。（後書き）

スラボウのキャラ紹介を忘れていたｏｒｚ
ということで・・・。

キャラ紹介ＰＡＲＴ５！
『スラボウ』
本名（？）：スライム　職業：魔物
年齢：不詳（人間にするとたぶん１２歳ぐらい）
血液型：不明（人間ならたぶんＯ型）

@詳細@
正義感が強い。熱血キャラ。すぐに突っ走る。
考えることが苦手で、後先のことを考えずに行動することが多い。
スラリンと同じようにこの世界の誰かの不思議な力によって
人の言葉が話せるようになったり、人の姿になることが出来る。

@一言@
なんとなく熱血キャラを入れてみたかったのと、
スラリン&ホイミンと逆の性格にしたかったのでこんなキャラに・・・。
というか、パーティの魔物がスライム系しかいない。。

≪この後の展開について≫
皆さんお気づきかもしれませんが、この話このまま行くとすっごい
シリアスな場面とぶつかってしまいます。一応シリアス回避出来る
準備は出来てますが、私にはあんな重たい話を台無しにする勇気は
ありません。私は一体どうすればいいのですか！！というかどっち
をご期待してますか？

≪シリアスＶＳギャグ≫　誰か票入れてください！！

『最終手段　―　どっちもやる』

たまには逃げることも大切ですよ。（前書き）

最初のほうと比べて思ったこと、主人公が真面目になっとるがな！？
まぁ、周りがボケばっかりだからしかたないけどさぁ・・・。
ということで少しずつ戻していこうと思います。

そして今回すっごく雑になりました。申し訳ございません。
もう少し力を入れて頑張りたいと思います。

たまには逃げることも大切ですよ。

わぁ～、何ここ～？　広～い！　暗～い！　迷路みた～い！

みんな迷っちゃうかも知れな～い！

てことで帰ろう？　今すぐダッシュで帰ろうよ？

え、何？　別に怖い、行きたくないとか思ってないよ！？

ただ、みんな迷ったらいけないからだよ！？

「なんだか不気味な雰囲気がしますね」

だよね！　帰ろうよ！！　なんで行くの！？

「それにすごい魔力を感じるよ」

だから帰ろうよ！！　今ならまだ間に合うよ！！

「ナンパックが帰ってきたのかな～？」

もうその人の事は忘れなさい。

『なんとパパスが魔物達と戦っている！！』

いきなりなんだよ！？　びっくりするじゃないか！！

てかまだ入り口だよ！？　パパスなんて何処にもいねぇよ！！

「パパスさんが戦ってるよ〜！　早く行こうよ〜！！」

次のフロアにてパパスと主人公を発見。

とりあえず今にも飛び降りそうなスラリンを抑えて、俺らは上から観戦だ。

主人公と出会うと厄介なことになりそうだ。

下手すりゃ主人公交代にするかもしれない。

それだけは嫌だ！

なんてったって主人公の特権がなくなってしまう（主人公の特権＝物語の途中では絶対に死なない）。

『スライムナイトがあらわれた！　ドラキーがあらわれた！　まほうつかいがあらわれた！　スライムがあらわれた！』

なんか増えとるがな！？　というか違和感ありすぎだろ！？

『魔物の群れをやっつけた！』

そして倒されとるがな！？　あれスラボウじゃないのか！？

「さすがパパスさんだ〜」

あなたにはスラボウは見えないのですか。　都合のいい目ですね。

「おお！アベルか！」

「お城ではぐれてしまったと思ったがこんな所までやって来るとは・・・・・。」

「いや、父さんが先に行くから・・・」

俺も同じようなことを考えたことがある。

「お前もずいぶん成長したものだな。父さんは嬉しいぞ！」

「さてともかく王子を助け出さねば！」

「お前が先に行け。後ろの守りは父さんが引き受けたぞ！」

「・・・・・」

主人公がめっちゃ嫌そうな顔してるんですが・・・。

というか相変わらずやる気のない主人公ですね。

「私たちも先へ進みましょう」

さて、どうなるんでしょう。

たまには逃げることも大切ですよ。（後書き）

次回！！　真面目ｏｒ不真面目！！
とりあえず両方します。
どっちかだけご覧下さい。
どっちも見てもいいですが・・・。
べ、別に嬉しいなんて思ってないからね／／／
・・・すいません、自重します。

辛いときは笑いましょう。（前書き）

シリアスブレイカーです。
というか主人公ａｎｄ主人公のダブルブレイカーになりました。
後半は原作すらブレイカーしそうなので一旦切らせていただきました。

辛いときは笑いましょう。

一応道は覚えているから迷わずにはいけたものの、
気付いたらスラリンが消えていたり、
突然棺桶が現れたり（回収したけど）、
おぼれたり、
天空の盾を手に入れたり、
いろいろあったけどなんとか目的地へたどり着くことが出来た。

現在のパーティは俺一人。

スラリン・・・行方不明
スラボウ・・・棺桶化
ホイミン・・・棺桶（邪魔だから）運び
キイト　・・・スラリン探し

多分、下2人は何かを察して逃げたんだろう。くそっ、なんて人任せなパーティなんだ。

「へ　ヘンリー王子！」

突然そんな声が聞こえてきた。

とりあえずバレないように向こう側に泳いでいく。

入り口のとこにいたら見つかってしまう。

てかこの時期の水冷たいよ！

今まで触れなかったけど全体的に意外に深いんだけど！？

床に足届かないんだけど！？　しかも装備重いから沈んでいくんだけど！？

ここにきて初めて天空の剣が邪魔になりました。

「く！鍵がかかっている！」

「ぬっ！ぬおおおおぉーーーっっ！」

パパスが鉄格子を壊すしてヘンリーのところに向かう。

「わー、父さんすごーい」

すごく棒読みなんですが・・・。

とりあえず俺は見物だ。というかそれどころじゃない。

俺の生死をかけた戦いが今始まってるんだから！！

「ヘンリー王子！」

「ふん！ずいぶんと助けに来るのが遅かったじゃないか。」

「何様のつもり？」

王子様です。何この主人公！？

「まあ　いいや。どうせ俺はお城に戻るつもりはないからな。」

「王位は弟が継ぐ。俺はいないほうがいいんだ。」

「や～い、ネガティブ野郎」

・・・こんな主人公は嫌だ。

てか、早く話し進めて！！　じゃないと溺れる！！

でも、むやみにバタバタすると見つかるかもしれないから出来ないし・・・。

とはいえ、何もしなかったら窒息死するしなぁ・・・。

「王子！」

パンッ

パパスがヘンリーを叩いた音が響く。

「な　殴ったな俺をっ！！」

「そうだー、父さん。やっちまえー」

・・・さっきからなんなんだろう、この主人公は。

「王子！あなたは父上のお気持ちを考えたことがあるのか！？」

「父上は　父上は・・・・・・・・。」

「・・・・・・・　・・・・・・・・。」

「・・・・・・・　・・・・・・・・。」

「ねぇ、帰っていい？」

俺も同感だがそれをお前が言ったらいけないような気がする。

「・・・・・・まあともかくお城に帰ってからゆっくり父親と話されるがいい。」

「さあ　ヘンリー王子！　追っ手の来ないうちにここを！」

パパス達が檻から出てくる。

まほうつかいが3体出現。あれ！？　なんか1体色違いが！？

というかどこかで見たことあるような気がするのは気のせいでしょうか？

「く！さっそく現れたかっ！？」

「アベル！　ここは父さんが引き受けた！」

「お前は王子を連れて早く外へ！！」

主人公達が入り口のほうへ向かう。

俺もこっそりそれについていく。ようやくここから開放される・・・・。

入り口ゲマが立っていた。何この急展開。

てか、寒！！　風邪引くよ！！

「ほっほっほっほっ。ここから逃げ出そうとはいけない子供達ですね。」

「誰？変態？変な笑い方して」

なんかホイミンと雰囲気似てるなぁ・・・。

「この私がお仕置きをしてあげましょう。さぁ　いらっしゃい！」

「何で怒ってるの？何で出ちゃいけないの？」

多分違う意味で怒ってると思うんですが・・・。

『ゲマがあらわれた！』

『ゲマをやっつけた！』

倒しちゃったよ！？　この主人公絶対チートかバグ使ってるよ。

まぁ、俺も人のこと言えないけどね。最初から天空の剣とか出てきたし。

でもこれ倒しても倒れちゃうからなぁ・・・。

「こっ　これはいったい！　アベル！　ヘンリー王子！」

パパス乱入。

「・・・父さん。・・・アンドレ（キラーパンサー）忘れてる」

確かにそうですがあなたはもう喋らないで下さい。

「ほっほっほっ。あなたですね。私のかわいい部下達をやってくれたのは・・・・・・。」

じゃあ、あの色違いさんも・・・。

「むっ？　お前は！？　その姿はどこかで・・・・・・」

「おや？少しは私のことをご存知のようですね。ほっほっほっほっ。」

というかスラリン達は何処行ったんだろ？

どうせこの後の展開は分かってるから今のうちに探しとこう。

じゃないと、ボス戦で勝てる気がしない。

「ならばなおさら光の教団の素晴らしさを教えておかなくては・・・・・・。」

「出でよ　ジャミ！　ゴンズ！」

何処だろう。とりあえず奥から探そう。

なるべく離れたいとか思ってませんよ！？

てか、また溺れながら行かないといけないのか・・・。

辛いときは笑いましょう。（後書き）

とりあえず一旦ここで切ります。
もう力尽きました。
しばらくを休み下さい。

・・・返事がない。ただのバカのようだ。

何が起こっても動じない心を持ちましょう。（前書き）

時は休むことを知らない。
忙しくチクタクと音を立てながら動いている。
それに合わせて人が動いていく。
まるで操られているかのように。

要するに、気がついたらこんなことに・・・。

何が起こっても動じない心を持ちましょう。

なんとか奥へ到着。

牢屋の中にどこかで見たことある顔と青い物体が見える。

・・・・・・うん、見なかったことにしよう。

「あ、兄さん！」

わ～、そんなところにいたんだ～。

「あ、旅人さんだ～。こんなところでどうしたの～？」

そのセリフをそっくりそのままあなたにお返しします。

「助けて下さい。帰る途中にボスっぽい奴に連れてこられました」

あなたたちは勇者を見捨てて先に帰るつもりだったんですか？

「鉄格子ぐらいさっきの人みたいに素手で壊せるでしょ？」

そんなこと普通の人間には出来ません。

【アランさん、後ろから何か大きいものが・・・】

《ゴッ》

痛っ！？　何か凄い勢いでぶつかって来たんですけど！？

てか、まだ俺水の中だよ！？　一体何が・・・

「あの・・・、すいません・・・。ここで何をされているのでしょうか・・・？」

・・・何？

《バシャンッ》

『アランは１００のダメージを受けた！』

《ブクブクッ》

「あ、すいません。私達悪い奴らに捕まってしまったんです。助けてくれませんか？」

（何普通に話しかけてんの！？　もうちょいよく見てよ！？　てか俺スルーかよ！！）

「あ・・・、そうだったんですか・・・。すいません・・・、何か気が付かなくて・・・」

（すっごい語尾の・・・が気になるんだけど！？
最後がすごい怪しく見えて仕方ないんだけど！？）

「気にしなくていいよ～」

（あなたはもう少しいろんなことを気にしてください）

「ちょっと待ってて下さいね・・・、今助けますんで・・・・」

（これ死亡フラグって思うのは俺だけなのか！？）

『？？は鍵を使った』

「Ｈｅｒｅ　ｙｏｕ　ａｒｅ」

（何で英語なの！？　何かすっごい怖いんだけど！？）

「Ｔｈａｎｋ　ｙｏｕ！」

（英語で答えなくていいよ！！　何でわざわざ英語にするの！？
てか何で違和感を覚えないの！？）

「Ｆｏｃｋ　ｙｏｕ～」

（無理して使わなくていいよ！！　むしろ使うな！！
それＴｈａｎｋ　ｙｏｕと似てるけど正反対の意味だからね！？）

「いえいえ・・・・・、これくらいどうってことないですよ・・・・・」

（ほら、スラリンが変なこと言うから・・増えたじゃん！！　めっちゃ怖いんだけど！？）

「じゃあ、私たちそろそろいきますね。外で仲間が待ってますんで」

（はい、死亡フラグ！　逝くとか言わない！！）

「あ・・・・・・、もしよかったら・・・・・・おくりましょうか・・・・・・？」

（何処におくるの！？　これもう死亡フラグ達成してんじゃないの！？

てか、もう・・・・・・読みづらいし、めんどくさいわ！！）

「じゃあ、お願いする～」

（お願いするんかい！！　お前の頭に遠慮という言葉はないのか！？

てか何処かおくられてもしらないよ！？）

「じゃあ・・・・・・、い・き・ま・し・ょ・う・か・・・・・・」

（怖っ！！　今の絶対こっちの「逝きましょうか」だよ！！

てか、「し」と「ょ」は分けちゃダメだろ！？　何て読めばいいんだよ！！）

「そうですね」

（てか、俺助けてよ！？　俺普通に突っ込んでるけど一応水中で気絶してるんだからね！？）

「では皆さん・・・・・・、目を瞑ってください・・・・・・」

「えい・・・・・」

気がついたら遺跡の外にいた。

中で何が起こったのかはよく思い出せないけど、なんか骸骨に話しかけられたような気がする。

たまにはこういうのもいかがですか。（前書き）

予告っぽい物。ｋｗｓｋは後書きで←

たまにはこういうのもいかがですか。

ってことで、天空の装備が揃ったのでとりあえず天空城に行くことに・・・。

（え、どういうこと！？
いきなり展開が変わるのはよくあることだけど進みすぎてわけ分かんねぇよ！？）

そりゃ、いろいろあったんだよ。いろいろと・・・。

（というか誰だよお前！？
何昔からいました的な感じなんだよ！？　お前なんかしらねぇよ！！）

そういやぁお前に朗報だぞ。もうお前は使えねぇから・・・。

（マジでか！？　それマジで言ってんのか！？）

最後まで言わせろよ。てか、そこで反応するってことはお前ちょっとは自覚・・・。

（嘘だ！！　はっ！　もしかしてこれは夢！？）

せめて述語の最初の一文字くらいは言わせてくれよ。そう思うなら頬つねってみろ。

（本当だ！！　痛ッ・・・くねぇじゃねぇか！？　結局夢なのかよ！？）

分からねぇぞ。今世の中は違うが、頭の中はかもしれないブームなんだぞ。
もしかしたら正夢になるかも・・・。

（それお前の中ではやってるだけだからね！？
というかツッコミとボケぐらいは安定させようぜ！！）

お前に言われたくねぇよ。まぁ、いろいろ頑張れよ。

～次回☆天空城編～

たまにはこういうのもいかがですか。（後書き）

ということで次回から天空城辺突入ということでw
いろいろ案はあったんですが全部お蔵入りすることになりました。
これ異常長いことやってら劣化(れっか)ぁぁぁあ！！
ってことでタンタン短(タン)と生きたいと重います。
だっていちいち天空装備暑めさせんのしんどいし、
第一ネタギ・・・なんでも無いです。
でも、いきなり天空城にいるよりは
なんかこういうのがあったほうが良くない？？
ねぇ、どうなの？？
え、全体的に変換がおかしい？
しらねぇよ。一番最初に出てきた奴なんだから。

ちゃんとしてないとこういうことになりますよ。（前書き）

皆様お久しぶりです。
いやー最近ＲＰＧ作るのにはまっちゃって☆
全く意味分かんないけどねーｗｗ
・・・・・スイマセン、自重出来ません。
あと、新しい話が思い浮かんだんでちょっといろいろ考えてたけど、
これ終わってからにします。
というか、今回はいつも以上にカオスな気がする。

ちゃんとしてないとこういうことになりますよ。

気付けば俺は、見知らぬ天井があった。

（意味分かんねぇよ！　いや、言いたいことは分かるけどさ！！）

俺は辺りを見渡してみた。

が、特に変わったところがなく、ＤＱのどこの家でも見られそうな部屋だった。

（・・・普通だ）

どうやらここは天空城のようだ。

（何で分かるんだよ！？）

知らないうちに天空城にお世話になってたらしい。

（お世話ってレベルじゃないよな！？）

何か感じる。何か・・・・・大きな力が。

（何かうざいんだけど！？）

何か悪い予感がする。早く深くかぶった毛布から出よう。

（毛布かぶってたの！？じゃあ、なんでいろいろ分かってたの！？）

と、思ったけど体が重くて動かない！！

（えッ！？何、金縛り！？）

どうやら毛布が重すぎるようだ。

（なんでだよ！？）

仕方ないのでもう一度寝よう。

（圧死するぅぅぅぅ！！）

と、言うわけにもいかないので俺は最後の力を振り絞って毛布を押しのける。

（何と戦ってるんだよ！？）

光が見えた。

（表現の問題）

『ＨＰが１０になった！！』

（ぎゃぁぁぁぁぁぁ！！）

急に光が差し込んだ所為で目が眩む。

『アランは幻に包まれた！！』

（よくあるわー）

今まで圧縮されていた所為か、体が思うように動かない！！

『アランは体が痺れた！！』

（・・・分からなくもない）

ここはどこだ！？

『アランは混乱した！！』

（何故だ！？）

昨日の晩ご飯が思い出せない！？

『アランは毒を浴びた！！』

（混乱してるからなー）

とにかくこのままじゃいろいろまずい！　とりあえず仲間を探しに行こう。

（Ｌｅｔ’ｓ　ｔｉｍｅ！）

・・・Ｌｅｔ’ｓ　ｇｏ！じゃね？

（え、マジで？）

えッ・・・？Ｌｅｔ’ｓ　ｔｉｍｅ！ってどういう意味？

（えッ・・・？分かんねぇ。）

そもそも何が違うの？

（もう一緒でいいんじゃね？）

『みんな混乱した！！』

ちゃんとしてないとこういうことになりますよ。（後書き）

書いててガチで分からなくなったわー。
何が違うんだよこいつら。ただ単に単語の問題じゃないの？
まぁ、意味が通じればいいんだよ。

落ち着いて行動しましょう。（前書き）

珍しく全然進んでおりません。
引きこもり主人公です。
そしてツッコミ不在。

落ち着いて行動しましょう。

とりあえず過去を振り返りつつ、今の状況を確認しよう。

○場所：天空城（？）の一室

○ＨＰ：１０／？？　ＭＰ：２０／？？

○状態異常：マヌーサ・毒・麻痺・混乱・呪い

○呪文：パルプンテ

○装備：天空一色

○持ち物：輝眼羅（キメラ）の翼・呪いの手紙・ゴールドオーブ・毒気思想・毒消し草・毒化死葬

○仲間無し＝ぼっち

○外で何か大きな力

○てか俺、喋り方クールじゃね？？

○コマンド：攻撃　呪文　アイテム　逃走　ツッコミ

・・・よし、ここからどうしようか。

普通の人ならまず毒消し草を食べるだろう。
だが、俺はそんな普通なことはしない。
いや、俺の考えのほうが普通なのかもしれない。
みんながおかしいだけかも知れない。
いや、違うな。昔の人はは分からない。が、今の現代人はおかしいと思うだろう。

『普通、草を食べますか？』

ほうれん草なら食べるが、そこら辺に生えてる草を食べるか！？
食べないだろ！？　少なくとも今この場にいる人達は食べないよな！？
それにな、これ一回頑張って食べたけどすごい苦いんだよ！！
ＤＱの人達は平気でバクバク食べてるけど俺は違うんだよ！？
水もなしにこれを食べるのは無理だ！！
・・・ということで毒消し草類を省いてアイテムをもう一度確認だ。

輝眼羅（キメラ）の翼・・・ここで使ったら頭ぶつけて痛い。

呪いの手紙・・・これ別に捨ててもいいよな？

ゴールドオーブ・・・せっかく天空城（？）に来たのでついでに返しとこう。

駄目だ・・・ッ！！　全然使えねぇ！！

パルプンテは戦闘用の最終兵器だから今使うのはちょっとなぁ、だし、

この部屋で何か使えそうなものを探そうにも毒食らってるから無駄に動けないし、

毒消し草は使えないし、

リセットは出来ないし、とにかく最悪な状態だ。

・・・まぁ、次回までになんとかなるだろう。

落ち着いて行動しましょう。（後書き）

主人公がツッコミを入れなかったので、皆さんがツッコミを入れてください。
まぁ、一つだけツッコミを入れるとすれば、普通の人ならまず毒消し草を食べる前にツッコミを入れるべきですよね～ｗｗ

毒気思想はどんなに頑張ってもこの変換しか出てこなかったので、もうこれで行きました。（毒消し・草っと打ってやっと出てきましたｗ）
毒化死葬の読み方は自由。私個人的には『どくかしそう』がオススメです。
この読み方をすると二つの意味になるんですよｗ
毒化・しそう（意味：なりそう）みたいなｗｗ
まぁ、どっちの意味でも主人公の将来の状態が見えてくるようですねｗｗ
そして、輝眼羅の翼は無駄にカッコイイ、とｗ

ちなみに呪いの手紙というのは天空の剣と一緒に入ってた手紙のことですｗ

今気付いたけど、状態異常の混乱以外最初のほうから持ってた気がします。
そして混乱はいつも通り、と・・・ｗ
あと見直した結果、最初の頃の主人公が意外にクールだった件ｗｗ
内心と非常事態時はアレだけど、普段時の喋り方やべぇｗｗｗ
書いてた本人のイメージが崩壊だわｗｗｗ

これ以上続けたら後書きが非常に長くなってしまいますので

この辺で切らせていただきます。
もしここまで読んでくださってるなら心からお礼申し上げます。

以心伝心できる友達がいたらいいですね。（前書き）

作者はホイミンが大好きです（、・ω・、）

以心伝心できる友達がいたらいいですね。

よし、毒も治ったところでそろそろこの部屋を出よう。

え、どうやって治したって？

そりゃお前漫画やアニメの世界で爆発して黒コゲになった人がしばらくして元に戻ってることに対してどうして？

って聞いてるのと同じくらい野暮な質問だぞ？

てか、そんなことはどうでもいいんだよ。

とりあえずこの部屋から出よう。

《ビリッ》

ん、何この音？　この音ってあれだよね？

基本的に何かが破れた時や裂かれた時に使われる擬態語だよね？

てことは、この周辺の何かが裂かれたのか？

まず考えられるのはやっぱり服とかそのへんじゃないだろうか？

でも俺の装備は天空一色だぞ？　何が破れるんだよ？

それ以前に破れた感じがしない。

紙とかもここにはないしなー。

じゃあ一体何が・・・ッΣ（゜д゜lll）！？

・・・・・・。（´・ω・`）

よし、これは気のせいだ。先に進もう（o゜・∀・`o）ニコッ♪

て、麻痺っとる！！×2　体が動かねぇよ！？Σ（゜Д゜＊）マヂィ？！

なんだそっちの音か・・・じゃねぇ！！どうすんだこれ！！（#゜Д゜）ｙ―～～

ドアさえ開ければきっと誰かがいるに違いない。（`・∀・´）

ドアノブさえ掴めればッ！！（なんだこの無駄にかっこいいのは！？）

とりあえず俺は動かない体を必死に動かして倒れるようにしてドアを開けた。

（文章力不足。だいたい分かるよね？）

ドンという音と共に。（え！？）

「いたっ？（＞д＜）　！！」

・・・さっきから何ですかこの顔文字。うざいんですけど。

「なにするのさ・・・ってただの勇者じゃないか」

ただのって勇者って結構すごいんだぞ。1ゲーム1人しかいないんだぞ。

・・・・・・ここは論外だけど。

「どうしたの？こんなところで」

いろんな事情（大人のも含めて）で話そうにも話せないんだが・・・。

てか、あえて言わないけどこれだけのセリフでこの声の正体わかってる人いんのかな？

てことで無言で訴えてみる。

「・・・・・・」

「気がついたら知らない部屋にいて、状況がよく分からないからってそんな倒れるまで一生懸命にヒゲダンスを踊らなくても・・・」

おかしい。俺は一体どういう風に見られてるんだろう。

「君の頭の中ってりんごみたいに狂ってるんじゃない？」

どういう意味だよ！？　林檎に何の意味をこめてるんだよ！！

『ホイミンはキアリクを唱えた！！』

へ？？

「冗談だよ」

え？　どゆこと？？

「僕をどっかの単なる馬鹿達と一緒にしないでね」

ホイミィィィインン！！

初めてお前が輝いて見えるよ！！　お前に出会って初めてな！！！

単なる馬鹿達に自分が入ってそうな感じだけど！！！

「失礼だよ」

何で分かんだよ！？　逆に怖いわ！！

《こうしてホイミンが仲間になった！！》

以心伝心できる友達がいたらいいですね。（後書き）

よく分かる解説ー

「フ　ハハ×2！！
このセリフだけ続けずに言っても呪文が発動できるフィールドを貼ってやった！！愚民ども！！これで・・・・・何かいろいろ困るがいい！！」
という空想世界の魔王　差誕（サタン）様によって何か変なフィールド出来てしまった！！

どうする！？　この空想世界の住民（単数形）よ！！

『キ　ア　リ　ク』
『君の頭の中ってりんごみたいに狂ってるんじゃない？』

ちなみになぜ林檎かと言われるとそれしか出てこなかったからｗｗ
他はもともと考えていた元ただのセリフ（あとから気づいて林檎足したｗｗ）。

もう一度いいます。
作者はホイミンが大好きです（、・∀・，）

空気を読まない行動や発言には気をつけましょう。（前書き）

せめて月刊にしようと思う。

空気を読まない行動や発言には気をつけましょう。

とりあえずホイミン回収。

早く他のメンバーも集めないとあいつらのことだから何か色々と手遅れになってしまいそうな気がする。

「あ、スラリンならさっき外にいたよ」

「多分ギリギリのところで“わ～、たか～い。ここから落ちたら死んじゃうかな～？
よ～し、試してみようかな～？”とか言ってるんじゃない？」

「スラボウはどこかで暴れまくって捕まってるね」

うわぁ～、それすごい想像できるわぁ～。

ガチで早くしないとやばいかもしれない。

でもとりあえず地形を把握しよう。絶対迷うから。

「ちなみに外へはあそこのドアから行けるよ」

「スラボウのいる部屋は分からないなぁ、ここ牢獄とか無いし・・・。
まぁ、絶対五月蝿いからすぐ分かると思うよ」

「あと、そこの部屋には世界樹のしずくがあったから貰っておいたら？」

「ちなみにこの部屋は実際のゲームでは存在しない部屋だよ」

・・・・・えッ（o。Д。o）。

・・・何この子、この子ってこんなに優秀だったの??

最後のは余計だけど・・・。

「だから僕をどっかの馬鹿達と一緒にしないでって行ったでしょ??」

てか、さっきから気になってたけど何で分かるの!?

これってあれか!?　主人公置いて話が進んでいく感じのやつか!?

「とりあえず近くの部屋から見ていこうよ。・・・めんどくさいけど」

え、そこは無視なの!?　・・・まぁいいか。

俺が近くのドアノブに手をかけた瞬間・・・。

「やめんか!!」

そのとき近くの部屋からごついおっさんの大声が響いた。

え、何ですか!?　この部屋に入るのをやめろってことですか??

すいません、ここはあなたの聖地でしたか・・・。

ここは素直に立ち去ろう。

「何でそんな方向に行くの？頭の中腐ってんじゃないの？？」

・・・・・これじゃ露骨に変な考えが出来ないか。

こんなの理不尽だよ！！

てか普段からそんな方向にいってるわけじゃないからね！？

ちょっとボケただけだからね！？

「それとも現実逃避？」

・・・痛い。心が痛いよ、お母さん。

・・・だってこんな雰囲気で回収したら俺が睨まれるじゃん。

「じゃあ、先にスラリン回収する？」

よし来た！！

「あ、でも僕外には行かないから」

・・・・・えッ（ｏ゜Д゜ｏ）。

「デジャブ」

それは非常に困るんだが・・・。

・・・そしてデジャブは気のせいだ。

「何でよ?僕がいないと何処にも行けないの?」

・・・・・できれば言いたくなかったけど俺高いところ苦手なんです。

・・・いわゆる高所恐怖症っていうやつですね、はい。

「でも、僕も無理だよ。
僕は高いところがトラウマなの。小さい頃はよく高いところで遊んでたんだけど・・・」

・・・どうしようか。

空気を読まない行動や発言には気をつけましょう。（後書き）

進んでるようで進んでいない、それが私の小説です。

癒しは大切です。（前書き）

期限というものができ（作っ）たので、ちょっとは計画的に考えるかと思ったら、
昨日今日で話を考えないといけないという結果になりました。
ということでいつも以上に内容薄目です、すいません。

P．S．
新キャラ登場です。パーティって最低８人いるからね（焦）
あと二人だね。

癒しは大切です。

＜天使　さんがログインしました。＞

冒頭から何してるんですか。

＜せっかく帰ってきてやったのにしばらくワタシのこと忘れやがって許せないＤＥＡＴＨー＞

俺の中の天使がグレたようです。

＜こうなったらワタシ以外のキャラ全員撲殺するＤＥＡＴＨー＞

もう俺は心は汚れてしまったようです。

≪悪魔　さんがログインしました。≫

≪久しぶりだな。まぁ、オレ一応裏の主人公担当してるんだが・・・≫

お前かΣ（゜д゜lll）！？

てか、なんかチャット化してませんか？

＜酷いデスー。悪魔ばっかりずるいデスー＞

【呪い　さんがログインしました。】

【天使さんはまだ良い方じゃないですか。キャラ濃くて。
わたしなんてキャラ薄い上、登場回数も少ないからもう皆さんに忘れられたますよ！！】

貴方はある意味濃いと思います。

【わたしあんなに親切に道案内とか道案内とか道案内とかしてたじゃないですか！！】

もっと他に無かったんですか。それ道案内しかしてないです。

【それなのに・・・ッ】

・・・もう、めんどくさいです。ちょっと黙っててください。

〜あ、なんか弱そうな人・・・〜

不意に何かの気配を感じる。

なんかとてつもなく失礼な声が聞こえた気がする。声には出てないと思うけど。

〜って、見かけで決めちゃいけないよね。もしかしたら何かものすごい力を持ってるかも・・・〜

そうだよ！

俺だって（多分）自分でも分からないくらい何かものすごい力を持ってる（と信じたい）よ！！

{でも、どう見ても弱そう・・・}

え、泣いていいですか？

「あ！！」

不意にさっきの部屋の中の人がッ・・・。

《ドンッ》

「おれは誰にも止められないぜ！！！」

《バタンッ》

「こら、待てゝ（ゝ д ,）ノ！！」

《ドンッ》

・・・・・・

「ひと手間はぶけたね」

「・・・」

「じゃあ僕もう一人探して来るから」

「・・・・・・」

二回も同じところをぶつけたら痛いよね（＿＾○＾＿）

・・・てか、俺放置ですか？

「・・・あの、大丈夫（焦）？」

俺が声にならない痛みと戦っていたら誰かが声をかけてきた。

「あ、ちょっと待っててね！？　え～と・・・（焦）」

『？？はべホマを唱えた！！』

「これで大丈夫だと思うけど・・・（焦）」

この子、すごく（仲間（パーティ）に）欲しい。

・・・たとえこの子がさっきの失礼な声の主だとしても。

「あ、えっとね。ボクはメタルスライムのメタリンって言うんだけど・・・（焦）」

「あのね、ボクね、人間になりたいんだ。

それでね、人間になるにはね、魔界にいるある人に会わないと行けないの。

でもね、魔界に行くにはね、勇者の力が必要なの。だから、その・・・（焦）」

「君の仲間になりたいな。あ、迷惑じゃなかったらでいいからね（焦）」

「ダメ・・・かな？」

「一緒に魔王倒してくれるなら来てください（、・∀・´）キリ」

「よかった～（＾ω＾）ホッ」

唯一の回復役を拒否するハズがないじゃないか。

それにこの子なんだかすごい癒される。まともそうで。

「そういえば仲間探しに行くんだよね（焦）」

・・・うん。

癒しは大切です。（後書き）

新キャラ考えてると不意に浮かんだ設定。
一人称全員違うのでいこう（、・ω・´）

てことでこうなりました←

『アラン』　俺
『キイト』　私
『スラリン』　ぼく
『スラボウ』　おれ
『ホイミン』　僕
『メタリン』　ボク

＜天使＞　ワタシ
≪悪魔≫　オレ
【呪い】　わたし
※敵キャラは関係無し
※裏主人公は無視

戦闘の『ナレ』も多少変更しました。
味方キャラは名前ではなくそのキャラの一人称で入ってるはずです。

過去に投稿した話も多分変更してると思います。
気になる方はすいませんが見てください。
・・・抜け落ち無いといいなぁ。

P．S．
一応次回で天空城編終わるつもりです。
そしてめんどくさいんで書いてませんが

メタリンはずっと語尾に（焦）があると思っといてください。
常にビクビクしているイメージです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7445m/

これでいいんですか？？

2011年12月1日19時54分発行